

■とっておき！美しい都市の景観……………3

「霧島神宮」霧島市（鹿児島県）

■市長座談会……………6

アートの力をまちに取り込み、誰もが文化芸術を楽しめる地域に

座談会出席市長●十和田市長・小山田 久／松本市長・臥雲義尚

取手市長・藤井信吾／岡山市長・大森雅夫

司会・コーディネーター●政治ジャーナリスト・細川珠生

■市政ルポ 福津市（福岡県）……………12

二大都市の間で輝く暮らし良さが子育て世代に人気 福津市長●原崎智仁

■マイ・プライベート・タイム……………18

思い出を重ね合わせて… 海南市長●神出政巳

■わが市を語る……………20

◆コンパクトシティ政策を深化し 富山市長●藤井裕久

「コンパクト&スマート」なまちづくり

◆いのちと暮らしを守り 未来を創る

共に生きるまち越谷へ 越谷市長●福田 晃

◆富士山の懷に抱かれた高原都市 御殿場市長●勝又正美

◆誰かが創る宇部じゃなく、みんなで創る

宇部に ともに次の100年へ 宇部市長●篠崎圭二

■これぞ！食のイチオシ 白石市（宮城県）……………28

■写真で見る都市の変遷／今と昔の風景……………29

茂原市（千葉県）



## 市政ルポ

福津市（福岡県）

産業振興×観光振興で目指す  
持続可能な自立都市！！

福津市長●原崎智仁

## 特集

若い世代との協働で実現する  
活力ある、持続可能な地域づくり

[寄稿1] 若者の地域参画の促進に向けて

福知山公立大学地域経営学部准教授 ● 杉岡秀紀

32

[寄稿2] 新幹線開業に向けたまちづくりと若い世代との協働

敦賀市長 ● 渕上隆信

35

[寄稿3] 学生とつながる関の未来を共に創る

関市長 ● 尾関健治

38

[寄稿4] 未来へつながるまちづくり

宇和島市長 ● 岡原文彰

41

## 動き

■世界の動き／ロシアの4州併合・動員令でウクライナ侵攻が新段階に

拓殖大学特任教授 ● 名越健郎

44

■経済の動き／円安・物価高に立ち向かう総合対策

日本経済新聞社編集委員 ● 滝田洋一

46

■自治の動き／デジタル化は地方自治の哲学を忘れずに(2)―藤井竜王に学ぶ―は公務員にはなれない

帝京大学教授(法学博士)・バーミンガム大学名誉フェロー ● 内貴 滋

48

■都市のリスクマネジメント

福祉BCPを支援する―2023年度末が期限― 跡見学園女子大学教授 ● 鍵屋 一

50

■時代を駆け抜けた偉人たち

易聖・嘉右衛門 高島嘉右衛門⑧ 水玉

作家 ● 出久根達郎

52

■全国市長会の動き

■編集後記

58

54

# アートの力をまちに取り込み 誰もが文化芸術を楽しめる地域に



がうん よしな  
**臥雲 義尚**  
まつもと  
松本市長(長野県)



おやまだ ひさし  
**小山田 久**  
とわだ  
十和田市長(青森県)



岡山市

松本市  
取手市

司会・コーディネーター

ほそかわ たまお  
**細川 珠生**

政治ジャーナリスト



おおもり まさお  
**大森 雅夫**  
おかやま  
岡山市長(岡山県)



ふじい しんご  
**藤井 信吾**  
とりで  
取手市長(茨城県)



（本文中の役職名・敬称は一部省略しています）  
※新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮し開催しています

以前から彫刻などの芸術作品を  
まちなかに設置する「パブリック  
アート」の取り組みが各地で進め  
られてきましたが、近年は住民交  
流の促進や地域活性化などを目的  
に、現代アートなどの作品を一定  
期間、野外に展示し、人々の地域  
周遊を促す「屋外芸術祭」も盛んに  
開催されるようになりました。ま  
た、地域の文化施設を中心に、市  
民の文化芸術活動を支援したり、  
アートの魅力を多くの市民に体験  
してもらうワークショップを開催  
するなど、市民の文化意識の醸成  
に向けたアウトリーチ活動も精力  
的に行われています。

座談会では、まちの魅力向上に  
向け、アートの力を生かした諸施  
策を進める小山田・十和田市長、  
臥雲・松本市長、藤井・取手市長、  
大森・岡山市長にお集まりいた  
だき、具体的な取り組み内容、市民  
の理解促進の重要性、  
アートがもたらす経済効  
果などについて語って  
いただきました。

各地に進められる  
アートを活用したまちづくり

**細川** 地域の個性や魅力を発信し、クリエイティブな人材を地域に引き付ける手段として、アートを活用したまちづくりが近年、各地で活

通り全体を一つの美術館に見立て  
多様な現代アートの作品を  
展開する「Arts Towada」を  
推進してきました。



小山田 久  
十和田市長(青森県)

発に進められています。それでは、各都市における取り組み内容についてお聞かせください。

**小山田** 十和田市の市庁舎前には、「官庁街通り」と呼ばれる、長さ1.1kmに及ぶ桜と松の並木道があります。「日本の道・100選」や「新日本100景」にも選ばれた、本市の中心市街地のシンボルロードです。通り沿いには、市庁舎以外にも、国・県・市の各種施設が並んでいますが、合同庁舎整備に伴う出先機関の転居などにより、20年ほど前には空き地も目立つようになっています。そこで十和田市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観を造り出すとともに、未来へ向けた新しいまちづくりとして、平成17年に「野外芸術文化ゾーン基本計画」を策定。通り全体を一つの美術館に見立て、多様な現代アートの作品を展開するプロジェクト「Arts Towada」に取り組むことになりました。

平成20年にはその拠点施設として、「十和田市現代美術館」(以下、現代美術館)を開設し、その向かいの空き地には屋外作品を展示する「アート広場」を設けました。また、通りに沿ってストリートファニチャーの設置も進め、平成22年にグランドオープンしました。国内外の有名アーティストが手がけた作品を長期展示するスタイルを特徴としており、現在、館内では27作品、アート広場では7作品を常設展示しています。例年、本市の人口のおよそ2倍となる約15万人が現代美術館を訪れるなど、地域にぎわいが生まれています。

**臥雲** 松本市の地域資源といえば、国宝松本城や山岳景勝地の上高地が有名ですが、文化芸術も有力な資源です。特に音楽が盛んな「楽都」で、世界的な指揮者である小澤征爾氏を総監督

とした「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」の開催地として、市民をはじめ、全国の皆さんに至高の音楽を提供してきました。また、美術分野でも「松本市美術館」において、松本市出身の世界的アーティストである草間彌生氏の作品を常設展示するなどしています。

さらに、老若男女の市民キャストが歌舞伎俳優と共演する「信州・まつもと大歌舞伎」や、まちなかを回遊しながら、さまざまな大道芸人のパフォーマンスを楽しむ「まつもと街なか大道芸」、合唱団もオーケストラも市民が担う「まつもと市民オペラ」など、多数の市民を巻き込んだ、多様な文化芸術活動も展開してきました。加えて、市民団体によるアート活動も活発です。中でも、さまざまなジャンルの工芸作家が出展する野外クラフトイベント「クラフト



中心市街地のシンボルロード「官庁街通り」沿いに整備された十和田市現代美術館(十和田市)

## 文化施設の整備後も ソフトやコンテンツを充実させて 継続的に市民の共感を 生み出していくことが重要です。



臥雲 義尚  
松本市長(長野県)

フェアまつもと」には、毎年、全国から多くの愛好家が訪れます。

また、日常生活の中で文化芸術に触れる機会を増やし、まちに魅力とにぎわいを創出させることを目的に、市内で行われているさまざまなアート活動を、一つのプラットフォームを通じて多くの人々に発信する「松本まちなかアートProject」にも取り組んでいます。

**藤井** 取手市では、平成3年の東京藝術大学取手校地の開設をきっかけに、同大学との交流を深めながら、「アートを身近に感じられるまちづくり」に取り組んできました。平成4年度には、市民の文化芸術への関心を高めることを目的として、「東京藝術大学卒業・修了作品展」の優れた作品に贈る「取手市長賞」を創設。受賞作品の数は60点となり、公共施設や公園など、市内各所で展示しています。これまで賞の対象は美術分野のみでしたが、令和元年度から新たに音楽分野も加えました。

市民が日常的にアートを感じられる環境づくりとして「壁画によるまちづくり」も長年にわたって推進しており、これまで制作された壁画作品は18点を数えます。昨年は取手市市制施行50周年式典に合わせて、取手市民会館の正面玄関に巨大壁画を制作したところ、市民にも大変喜んでいただきました。

さらに、平成11年からは本市と市民、東京藝術大学の三者共同による「取手アートプロジェクト」も推進。市内をフィールドとして、アーティストの活動支援と、市民が芸術体験・創造活動に関わる機会の創出に取り組んできました。また、令和元年には、産官学連携の下、取手駅の駅ビル内に、市民が気軽に作品を鑑賞したり、アートを体験できる文化交流施設「たいけん美じゅつ場」(VIVA)も開設しました。

**大森** 私たちが普段使う「観光」という言葉は、四書五経の『易経』に出てくる「観国之光」(国の光を観る)が語源といわれています。この「光」とは地域の風土や文化を指しますが、岡山市でも地域の光に磨きをかけようと、文化芸術の振興に力を入れてきました。



2005サイトウ・キネン・フェスティバル松本

©ほそがや博信

その取り組みの一つが、中心市街地の岡山城・後楽園周辺エリアを会場に、平成28年から3年ごとに実施している「岡山芸術交流」です。国際的にも高い評価を得ている現代美術の国際展で、今年の9月末から3回目が開催されます。コロナ禍の影響で、地域を見つめ直す動きが強まる中、今回は「子ども」と「地元」をキーワードに設定しました。現代アートは難解な点もありますが、子どもたちにはフレッシュな感性で作品を受け止め、アートの素晴らしさを感じ取ってもらいたいと考えています。

また、岡山市は、明治生まれの児童文学作家、坪田譲治の出身地でもあります。岡山市ではこの縁を生かして、優れた文学作品を表彰する「坪田譲治文学賞」を約40年にわたって運営するなど、市民と一体となって、文学による心豊かな



## 東京藝術大学取手校地の 開設をきっかけに 「アートを身近に感じられる まちづくり」に 取り組んできました。

藤井 信吾  
取手市長(茨城県)

なまちづくりを推進してきました。そうした歴史を土台に、現在、「ユネスコ創造都市ネットワーク」の加盟運動も展開しています。

### 市民の理解・協力を促進する

**細川** アートを活用した諸施策を進めるには、文化施設の整備など、一定の投資も必要になると思います。その点、市民の理解や協力が重要

になると思いますが、いかがでしょうか。

**臥雲** 「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」や「信州・まつもと大歌舞伎」の主要会場である「まつもと市民芸術館」は、地域の文化芸術の拠点として平成16年に開館しましたが、建設時には反対運動が起きるなど、市民の間でも賛否両論がありました。今になってみると、あのよう大きな投資をしたからこそ、質の高い大規模イベントを開催できていたのも事実ですが、公共施設は整備後も維持管理や更新の費用もかかっています。その意味では、いかにソフトやコンテンツを充実させて、継続的に市民の共感を生み出していけるかが重要になってくると思います。

実際、松本市では多くの市民が地域に誇りを感じながら、各種イベントの運営サポートを含め、主体的に文化芸術活動に携わっています。今後は、その効果や広がりを市全体に波及させるため、アウトリーチ活動にも注力していきたいと考えています。

**小山田** 十和田市でも当初は市民の間に、現代美術館の建設に反対する声がありました。しかし、開館以来、まちを訪れる観光客が増え、活性化効果が生まれたことに加え、地道にワークショップなども実施した結果、市民の認識も変わってきました。

今では多くの市民ボランティアが来館者向けの鑑賞サポート、清掃活動などを担われているほか、事業主の皆さんも店舗の一角を作品の展示スペースに提供されるなど、さまざまな形で現代美術館を盛り立ててくださっています。

**大森** 岡山市では、老朽化した「岡山市民会館」と「岡山市立市民文化ホール」に代わる新しい文

化施設として、「岡山芸術創造劇場 ハレノワ」の整備を進めており、来年9月に開館予定です。

市民と文化施設との関わりは、これまで作品や公演の鑑賞が中心でしたが、「ハレノワ」では、鑑賞機会の提供だけでなく、市民の創作活動を積極的に支援し、新たな文化芸術の創造につなげていきたいと考えています。幸い、この整備事業に対し、反対意見は聞こえてきませんが、新しい文化施設での積極的な活動を通して、市民一人一人の人生が豊かになり、文化に厚みが増してくればうれしいですね。

**藤井** 長年にわたる東京藝術大学と連携したまちづくりの展開により、市民もさまざまなアートプロジェクトに意欲的にチャレンジされるようになりました。アーティストと市民が協働で、大だこ揚げに取り組む「大空風プロジェクト」は



市制施行50周年式典に合わせて、取手市民会館の正面玄関に制作した巨大壁画(取手市)

## 来年開設の 「岡山芸術創造劇場 ハレノワ」 では鑑賞機会の提供に加えて 市民の創作活動も積極的に 支援します。



大森 雅夫  
岡山市長(岡山県)

その一例です。参加した市民は地元で取れる材料を使い、アーティストと共に紙すきや染色なども行つて、12畳相当の大だこを製作。その後、みんなで力を合わせて空に飛ばし、大いに盛り上がります。また、毎年行われる「取手ジャズフェスティバル」でも、市民の皆さんがアマチュアバンドを結成して、腕前を披露されています。

### アートがもたらす経済効果

**細川** アートは多くの人をまちに呼び込む観光資源でもあります。アートがもたらす活性化効果について、どのように考えられていらっしゃるでしょうか。

**大森** 岡山市は中国・四国地方の結節点として、良好な交通アクセスに恵まれており、もともと大規模イベントを実施するのに適した地域です。しかも、「岡山芸術交流」は、瀬戸内の島々を主会場とする「瀬戸内国際芸術祭」と同時期に開催します。今回も相互連携を図ることにより集客効果を高め、経済活性化に結び付けたと考えています。

**小山田** 現代美術館を訪れる約15万人のうち、その約7割は県外からの観光客。市内で食事・宿泊をされる方が多く、地元経済も活気づいています。食事では、地元のソウルフードである「十和田バラ焼き」が特に人気が高いですね。

十和田市には奥入瀬溪流や十和田湖などの観光資源も豊富です。さらに、現代美術館は建築家の西沢立衛氏が設計されましたが、ほかにも市内の中心市街地には隈研吾氏による「十和田市民交流プラザ トワレ」、安藤忠雄氏が手がけた「十和田市教育プラザ」など、世界的な建築家が設計した公共施設も開設されています。観光客には、地域全体の活性化に向けて、さまざまな観光資源や施設を巡ってもらいたいと考えています。

**臥雲** 観光客にいかにもまちを回遊してもらうか、という点は非常に重要ですね。この点で、松本市内でも今注目されているのが建築物です。中心市街地には松本城以外にも、国宝の旧



展覧会に合わせ校庭を芝生化し、岡山芸術交流2022のタイトルを表した作品  
(岡山市)  
©Okayama Art Summit2022

開智学校校舎や国登録有形文化財の旧第一勧業銀行松本支店など、名建築物が数多く集積しています。今年の1月には、エリア内に立地する19もの建築物にアート作品を展示する「マツモト建築芸術祭」を開催したところ、目標の3倍を超える延べ約6万5000人が来訪されました。

**藤井** 取手市をはじめ、J-R常磐線沿線の自治体(我孫子市、柏市、松戸市、葛飾区、足立区、荒川区、台東区)と、J-R東日本東京支社、東京藝術大学が連携して「JOBANアトライン協議会」を結成し、アートを基調とした沿線情報共有と連携環境の整備に取り組んでいます。これまで沿線内外への情報発信力の強化と交流人口の拡大を目指して、アートイベントやワークショップを開いたり、プロモーションビデオを制作するなどしてきました。昨年も取手

市内のパブリックアートを鑑賞しながら、歴史ある建物を巡る「駅からハイキング」という交流イベントを実施したところです。

### アーティストの育成支援に向けて

**細川** 文化芸術の担い手であるアーティストの育成も行政の役割の一つだと思います。各市ではどのような取り組みを進めていらっしゃるのでしょうか。

**藤井** 取手市では、アーティスト支援の一環として、平成19年に市内の井野団地内の1棟（全7戸）を改装して、共同アトリエ「井野アーティストヴィレッジ」を整備しました。アーティストが思う存分創作に打ち込める活動拠点です。

また、取手市には、新型コロナウイルス感染症の影響により活動や発表の機会を失ったアーティストや音楽家が少なくありません。そこで、一定の支援額を支給した上で、創作活動の様子や作品、インタビューなどを特別サイトで紹介する「アート創作活動拠点形成事業」など、各種支援策を講じています。

**小山田** 作品発表の機会を数多くつくることも、アーティスト支援につながります。十和田



細川 珠生  
政治ジャーナリスト

市では、この9月に開設する「十和田市地域交流センター（設計者・藤本壮介氏）」をはじめ、市内の公共施設などでも、これまで以上に作品展示を進め、多くの人が作品を目にする機会を積極的につくっていきたいと考えています。

**大森** 岡山市では、昭和37年に小学生から中高校生までが活動する「桃太郎少年合唱団」を、昭和40年には自治体が運営する全国初の公立青少年オーケストラ「岡山市ジュニアオーケストラ」を設立するなど、長年にわたり子どもたちの育成支援を進めてきました。

一方、プロのアーティストに対しては、創作や発表の機会を提供することが何よりも大切だと考えています。特に「ハレノワ」では、アーティストの皆さんには精力的に活動いただきたい。その姿が市民の芸術熱を高め、地域文化の裾野が広がることを期待しています。

**臥雲** 松本市は故鈴木鎮一が造り上げた音楽教育法「スズキ・メソッド」の本拠地であり、毎年、夏には世界中の子どもたちを対象にした音楽教室が市内で行われています。また、「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」でも、県内の小学6年生や中学1年生に音楽会やオペラ鑑賞の機会を提供しています。

一方で、松本市はにぎわいのあるまちなか空間を有しているながら、豊かな自然も身近に堪能できる清涼感のあるまちです。アーティストが意欲的に創作活動を行える条件を備えていると思います。今後は子どもたちへの育成支援に加えて、多くのアーティストに「松本に居住して、創作活動をした」と思っていただけのような施策や地域づくりも進めたいですね。それぞれが真のアーティスト支援であり、またクリエイ

ティブ産業を市に根付かせる秘訣<sup>ひけつ</sup>だと考えています。

**細川** コロナ禍は、地域の文化芸術活動にも大きな影響を及ぼした一方で、アートの重要性が再認識された面もあるかと思っています。今後も地域の文化行政を担う機関として、地域の魅力向上にアートを積極的に活用し、さまざまな主体と連携しながら、まちを挙げて文化芸術の振興に取り組んでいきたいと願っています。本日はありがとうございました。

（令和4年7月13日、全国都市会館にて開催）

本コーナーは隔月掲載となります。次回は1月号に掲載予定です。



# 二大都市の間で輝く暮らし良さが子育て世代に人気 産業振興×観光振興で目指す持続可能な自立都市!!

順調な歩みだからこそ必要な  
「恵まれた環境」からの脱却

多くの都市が人口減少の抑制・克服に苦慮しつつある現況下、さまざまな要因や努力の積み重ねによって、人口を増やし続けている都市も一方にある。平成17(2005)年1月、福岡県北西部に位置する旧宗像郡福岡町つくさぎまちと同津屋崎町の2町の合併により、新市としての歩みを開始した福津市は、そうした都市の一つだ。

福津市は合併から7年後の平成24(2012)年以後、人口を少しずつ、着実に増やし続け、合併時の人口約5万7000人は、令和4年9月末時点で6万8502人にまで増えている。直近の10年間で約1万人、人口を増やしたことになるが、その背景には言うまでもなく、さまざまな要因(備わっていた資質)と共に、それらの要因を成果(人口増とその維持)

へつなげていくための、福津市自身の膨大な努力の積み重ねがあり、それは現在も続けられている。

現在、福岡県内には29の市があるが、その中でも福津市が人口増を持続(合計特殊出生率も全国平均超を維持)している最大の客観的要因(資質)は、全国に20市、九州に3市しかない政令指定都市のうちの2市、福岡市と北九州市の間に位置しているという地理的特質だろう。しかも、福岡市の中心部からは25km圏内、北九州市中心部からは40km圏内と、共に至近距離にある。

交通網も充実している。市域東西をJR鹿児島本線が貫き、市域西部の海岸線に沿う形で国道495号(北九州市若松区・福岡市東区)が走っているほか、九州の主要部を縦断する九州自動車道(北九州市・福岡市・久留米市・熊本市・鹿児島市)の若宮IC(宮若市)、古賀IC(古賀市)も至近だ。そのため、JR博多駅(福岡市)からJR鹿児島本線(快

はらさきともひと  
原崎智仁市長  
福津市

(速)で福岡駅  
(福津市の中心  
駅)までは約25分、

JR小倉駅(北九州市)から福岡駅ま

では快速で約45分。さらに福岡空港から福津市中心部までは車で約40分、北九州空港からも同様に約70分で着くなど、ベッドタウンとしての優れた資質を形成する、非常に恵まれた地理的(交通)環境を有している。

その上、市域西部は玄海国定公園の美しい海岸線に縁取られており、全長22kmに及ぶ白砂青松の海岸線沿いには「九州の湘南」と称される、ファッショナブルなまち並みが随所に形成されている。





福津市の全長22kmの海岸線は「九州の湘南」として大人気



福津市の多様な魅力を凝縮!! イオンモールの前に立つ「ふくつの海岸」案内看板



花のまち・福津を代表するトルコギキョウ



津屋崎海岸に建つグランピング・ドームはガラス張りの壁から海が一望できる

そうした新たなまち並みが、近世以降に形成された旧津屋崎町エリアのモダンな交易都市と伝統的な漁師町が混交した独特な雰囲気や、創建1700年以上とされる宮地嶽神社（みやじだけじんじや）および平成29（2017）年に認定された世界遺産「神宿る島／宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産の一つ「新原・奴山古墳群」など、太古に形成された景観と当たり前のように同居している様子は、非常にダイナミックだ。

そのように多様性に満ちた都市的構造や景観は、福岡都市広域圏の中でも特に良好な環境的条件に育まれ、今も盛んな農水産業が生み出す《食の魅力》と共に、観光振興の大きな目玉と言える。

同時に福津市は合併以来、積極的な新市のまちづくり（建設）計画の遂行を通して、こうした数々の優れた地域資源や財産を、より一層生かすような、独自の都市的環境を自ら創り上げてきた。

「その基盤となったのは、合併からの約7年間（平成17～平成24年）にわたって先達が実施した、福岡駅東土地区画整理事業の完了およびそれに付随しての大型商業施設（イオンモール福津）の開業、その他の進出



企業による雇用の場の創出、JR福岡駅の新駅舎開業、公共下水道の整備事業竣工（しゅうこう）による生活環境の向上など、地域活性化にまつわる各種の施策・事業でした。

福岡市と北九州市のどちらにも近い福津市は現在、福岡都市広域圏（10市7町）に組み込まれています。実際、福津市から福岡市に通勤する市民は非常に多く、福津市はいろいろな意味で、福岡市の文化・経済圏の一員という気分が強いと言えます。

しかし、合併前の旧福岡町は、昭和36（1961）年に北九州市（※当時は八幡市）に立地する八幡製鐵（はたてつてつ）（現日本製鉄）の社員住宅として、原町団地が造成されたことにより、人口が急増しました。

福岡地区にはその後も、東福岡団地（県住宅供給公社）、若木台団地（東急不動産）、光陽台団地（西武不動産）などの大型住宅団地が建



300年以上の歴史を誇る津屋崎祇園山笠



日本一の太注連縄(しめなわ)のほか、日本一の太太鼓・大鈴も有する  
福津の宮地嶽神社は全国に点在する宮地嶽神社の総本山

設され、ベッドタウンとして成長していきま  
すが、それは八幡製鐵と、かつては八幡製鐵  
の企業城下町とされた北九州市との関係(絆)  
の深さが主因となつての発展と言えます。  
そういう意味合いにおいて、福岡市と北九  
州市の双方と至近距離にあるという絶妙な位  
置取りは、福津市の持つ都市としてのまさに  
重要な資質です。合併後しばらくしてから  
は、そうした資質と土地区画整理事業などの  
効果で、着実に人口増を維持してきた側面が  
あります。しかし、周知のように人口減少の  
潮流は、都市としての資質の高さや、土地開  
発などの建設事業の成果だけで乗り越えられ  
るような、単純な問題ではありません。  
福津市の3代目市長に就任した私の責務  
は、そうした地理的な優位性や、先達が構築  
してくださった都市としての基盤の上に、何

物にも依存しすぎない、自立した都市として  
の、福津市の持続可能な未来、具体的には、  
人々に選んでいただき続ける、少子高齢化を  
招かない都市への、確固たる足掛かりを創る  
ことと自認しています。端的に言えば、『環  
境に恵まれた都市』から『恵まれた環境を生か  
して自ら稼ぐ都市』への脱却が、私の主要  
テーマなのです」

そう語るのは、原崎智仁福津市長だ。原崎  
市長は福津市(旧福岡町)の出身。大学卒業  
後、平成15(2003)年から社会福祉法人の  
職員となり、平成23年1月から平成29年1月  
までの福津市議会議員としての活動を経て、  
同年2月に行われた市長選に出馬し、当選。  
令和4年の現在、2期6年目を迎えている。

### 求められるのは20年先30年先を 見据えたまちづくりの礎

旧津屋崎町のまちづくりが始まったのは、  
関ヶ原の戦い(慶長5/1600年)の恩賞に  
より、豊前国(主に現大分県)を領していた戦  
国武将・黒田長政が、徳川家康から筑前(主  
に現福岡県)の領主に移封された直後という  
から、400年以上も前のことになる。

また、近世に塩田開発が盛んになるととも  
に、産出される塩を中心に各種の交易が行わ  
れるようになり、津屋崎は玄界灘の交易都市  
として名をはせる。そのにぎわいは「津屋崎  
千軒」と称されるほどで、当時の名残は白壁



子どもたちがマリンスポーツの魅力を学ぶ「学校海洋体験」の模様(アカウミガ  
メの産卵地からも近い福津市勝浦浜海洋スポーツセンター)

黒瓦の伝統的なまち並みや、700年以上続  
く《博多祇園山笠》の流れをくみ、18世紀初頭  
に始まった伝統行事《津屋崎祇園山笠》(福津  
市無形文化財)などにも見て取れる。

現在の津屋崎地区は、伝統的なまち並みが  
保存されている分、新たな開発はされにく  
い。その半面、福岡都市広域圏では珍しい農  
水産業に好適な自然環境が保たれ、後継者不  
足という悩みを抱えつつも、福津市の第一次  
産業を今もしっかりと支えている。

一方の福岡地区は、江戸時代には福岡浦と  
称される漁村だったが、明治22(1889)年  
に門司港駅から博多經由、熊本・鹿児島にま  
で至る鹿児島本線が部分開業し、翌明治23  
(1890)年に、福岡駅が設置されて以降、

# 福津市

(福岡県)

市 政 ル ポ



福津市には進出企業による実験的な事業も目立つ／店舗と住宅が一体になった新感覚の「商業一体賃貸住宅」

近代的なまち並みを形成していく。

高度経済成長時代が始まる1960年代以降、北九州市(旧八幡市)に立地する八幡製鐵の成長とともに、ベッドタウンとして拡充していくわけだが、大型住宅団地の開発が一段落した平成12(2000)年ごろから、旧福岡町・津屋崎町を合わせた福津市エリアの人口の伸びが停滞し始め、平成17年の合併を挟んで平成23年ごろまでは横ばい、ないし漸減傾向が続くことになる。しかし、冒頭に述べたように、翌平成24年以降は、合併から7年間にわたる新市のまちづくりなどを契機に、再び人口が増加、現在に至っている。

試みに、人口の増え始めた平成24年以降に発表された「住みよさランキング」など、出版社やデベロッパーなどが主催する各種「都市別人気ランキング」を見ると、平成24年には福岡県で第2位(東洋経済新報社・住みよさランキング)に位置付けられ、令和4年に至るまで途切れることなく、九州地区、福岡県、時には全国の都市別ランキングでも上位に位置付けられているのを確認できる。

その間の平成27(2015)年には、人口が6万人台に達した。翌平成28(2016)年には、合併以来、旧福岡庁舎・津屋崎庁舎の分

庁方式で行われていた市役所機能を、福岡庁舎に集約するなど一体化を推進。津屋崎地区には、市民サービスを行う津屋崎行政センターが、新たに設置された。

さらに、原崎市長が就任した平成29年には、旧津屋崎町の庁舎が図書館や資料館(図書館1階に設置された世界遺産『新原・奴山古墳群』の模型展示・資料室)、最大506席のカメリアホールを有する文化会館、カフェ、誘致企業のサテライトオフィス、市内での起業を目指す人たちのためのインキュベーションルームなどが入居する複合文化施設《カメリアステージ》へとリニューアルされ、公共施設の大まかな統廃合は取りあえず一段落した。

「紆余曲折はあったものの、特に福岡駅東地区の開発が竣工し、人口が再び増え始めた平成24年ごろからの、そうした福津市の歩みは、はた目には恐らく順調すぎるほど順調に映ることでしょう。

実際、市役所内でも、そのような雰囲気配が支配的でした。半面、いつかは福津市にも来るのが確実な人口減少への対応、働き盛り世代の

減少による税収の減少や超高齢化社会到来への対応、さらに現時点での人口増とともに急がれる子育て支援などについては、有効な具体策がなかなか実施されない状況が続きました。

20年先、30年先を見据え、いつか来る人口減少にも対応できるビジョンを構築した上で、必要な施策を適宜打ち出していくのであれば、現在せっかく続いている人口増の効果を、持続可能な近未来のまちづくりの基盤へと引き継いでいくことが、できなくなる恐れがあります。平成23年に福津市議会議員となった私には、新市の基盤が少しずつ構築され始め、人口増とともに、せっかく上昇機運に乗り始めた福津市政のそうした停滞状況に対し、年を追うごとに強い危機感を覚えざるを得ませんでした(原崎市長)



移住者夫妻が経営するオシャレなカフェから見える景色



津屋崎の歴史資料などが展示されている津屋崎千軒民俗館「藍の家」(国登録有形文化財)は築120年の元染物屋



福津市の名産・みずみずしで知られるカリフラワー

かくして市長選への出馬を決意した原崎市長による、就任（平成29年3月）後の動きは、非常にエネルギーなものであった。

まずは懸案になっていた「第二次総合計画」の策定を、市民の意見を徹底的に反映した形で仕切り直した。行財政改革においても、内部監査だけでなく、市民と共に不断に検証できるようなシステムを含む、新たなプランに構築し直した。

そうした市政の根幹をつかさどる各種計画の見直し、強化とともに、地域活性化の基盤となる「福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成28年3月策定）を平成29年9月に改訂。前出の市長談話にある「恵まれた環境を生かして自ら稼ぐ都市」の構築を推進する機関として、平成30年、《農水産業×観光》を戦略的な取り組みに掲げる地域商社「一般社団法人福津いいざい」を設立した。

## 共働と農水産業×観光振興で目指す 《稼ぐ都市》の基盤構築

『福津いいざい』は、農水産品を主力とした《食》をテーマに、農水産物やその加工品、6次産品および観光資源を価値ある《知財》として戦略的に情報発信するとともに、販路の開拓、高付加価値化に伴う認知向上へと結び



地元・玄界灘産の新鮮な魚介はまさに地域財産

付け、観光振興の原動力にする。ひいては、総合的なローカルブランディングにまで結び付けるような取り組みを行う目的を持って、設立しました（原崎市長）

例えば福津市のふるさと納税額は、平成30年度において一気に前年度比約4.5倍に増加し、以後、年を追うごとに約3倍、約2倍、昨年度においては1.3倍強（いずれも前年度比）と順調に伸びている。これは「平成30年度以降、福津いいざいが商品のセレクトからブランディングに至るまで関わるようになったから」（原崎市長）だ。

その過程の令和3年9月1日には、令和2年から準備を本格化させていた《一般社団法人ひかりの道DMO福津》（代表者は宮地嶽神



津屋崎ヨットハーバーは風光明媚な玄界灘の景色を眺めながら出航でき、大小約180隻を保管できる

社宮司の浄見譲氏）の設立登記を、福津観光協会と連携して実施している。

『「地域の稼ぐ力を引き出す観光地域づくり法人」としてのDMOの取り組みに対しては、補助金を適宜交付するとともに、福津の魅力を生かしながら、持続可能な観光のまちを実現するため、これからさらに連携を強めていきたいと考えています」（原崎市長）

同様に原崎市長が現在、自ら稼ぐ都市としての新たなシステム構築の原動力として、実現を最も強く願っている目標の一つは、「商用にも観光用にも使える、しかるべき規模のホテル誘致」だという。

「コロナ禍以前の福津市には、年間600万人近くの観光客がいましたが、そのほとん

# 福津市

(福岡県)

市 政 ル ポ



干潮で穏やかな天候の日だけ見られる「かがみの海」

どは日帰り客でした。しかし、福津市には数多くの魅力的な観光資源があります。

最近では、潮が引いた晴天かつ穏やかな天候の日に見られる《かがみの海》や、年に2回だけ夕日が参道を真っすぐ照らし出す宮地嶽神社からの風景（光の道）が『インスタ映える風景』として、全国的な人気を博するようになっています。

宿泊施設が充実すれば、食の魅力など、数々の地域資源をゆつくり楽しんでいただくことができます。優れた産物が豊富にあるのに、後継者不足に悩まされがちな農水産業の振興にもつながり、自ら稼ぐ都市としての基盤もより一層整っていくはず」（原崎市長）

以上述べてきたような多様な計画、施策や事業などについては全て「市民の意見を常に反映しながら進めてきましたし、その姿勢は福津市政の基本精神として今後も厳格に守っていききたい」とも語る原崎市長は、本年7月1日に「福津市ボランティアセンター」を改組し、市民活動の拠点として「福津市未来共創センター（キッカケラボ）」を、中央公民館内に設置した。

キッカケラボは「市民活動を新たに始めた市民が、市民共創参画の第一歩を踏み出すための『きっかけの場』になるように」（原崎市

長）との願いが込められた命名だ。令和元年7月に《SDGs 未来都市》に選ばれた福津市には、各地区の市民による「郷づくり（まちづくり）事業」などを通じ、地域活動、市民活動に熱心な市民が多い。さらに、二つの会議室や情報コーナー、印刷コーナーなどを備えた拠点施設・キッカケラボの設置は、新たに市民活動に参画する市民の「やる気」を促す効果と共に、近年に新住民になった人々にとっても、地域を知り、地域に深く溶け込んでいくための「きっかけの場」になるのではないだろうか。

また、福津市は現在、市内に立地する鹿児島本線のもう一つの駅「東福岡駅」周辺地域の「にぎわい再生計画」を推進している。福岡市寄りの福岡駅周辺は、合併直後の平成17年から実施した土地区画整理事業の成功で、人口増の基盤を作った。それに対し、北九州市寄りの東福岡駅周辺は、旧福岡町時代に造成された大型団地が集中しており、団地の老朽化などに伴ってにぎわいが低下しつつあった。東福岡駅周辺の「にぎわい再生計画」は本年度中に、にぎわい再生を担う民間事業者を決定する段階だが、近未来に向けた、新たな発展のスプリングボードとして、今後の推移が注目される。

さらに津屋崎地域につい



玄界灘に沈む夕日が宮地嶽神社の参道を照らす「光の道」が見られるのは年に2回だけ

ては、津屋崎千軒を中心とした観光の活性化に向けて、エリア内にある公共施設などを官民連携手法で活用するための方策についても、調査・研究を重ねている。これについても、今後の展開が非常に楽しみだ。

さて、合併時に公募決定した「福津」の市名には「幸福や多くの人が集まる津（港・場所）でありたい」との意味が込められている。

良好な自然環境の指標とされ、長寿の代名詞でもあるアカウミガメが毎年のように産卵に帰ってくる福津市は、まさに多様な幸福が集まってくる「津」の条件がそろっている。恵まれた環境に甘んじることなく、市民共創を基盤に、いろいろな意味で自立し、自ら稼ぐ都市としての発展を目指す原崎市長の主要テーマは、「市名に込められた願いを着実に実現していくこと」にある、とも言えそうだ。（取材・文＝遠藤隆／取材日＝令和4年7月12日）

# 思い出を重ね合わせて…

かいなん 海南市長(和歌山県) **じん で ま さ み 神出政巳**



## 郷土の偉人小野田寛郎氏

ふるさとの偉人を1人挙げれば、小野田寛郎元大日本帝国陸軍少尉。私が卒業した内海小学校、海南高等学校(小野田さんは旧制中学)の29歳年長の先輩です。小野田さんの生家と拙宅とは120mの距離。戦後、隣家で小野田さんの次兄や弟さんが電気屋をしていたと、小野田さんより一つ年下の両親から聞きました。

小野田さんは健在であれば100歳。大正11年3月19日海南市名高に生まれ、大東亜戦争に従軍し、最前線のフィリピン・ルバング島に派遣され、終戦を知らされずに



(左から)町江夫人、寛郎氏、筆者、小野田宇賀部(おこべ)神社宮司

30年近く、最後の一兵になるまで戦い抜く。帰国後は単身ブラジルに渡り、未開の荒野を開拓して立派な牧場主となった一方、日本では福島県に「小野田自然塾」を開き、青少年の健全育成に尽力され、平成26年1月16日に91歳で逝去。私は2度、80代の小野田さんにお会いしました。運動量に応じただけのカロリーの高い少量の食がモットー。小柄で階段を2段ずつ駆け上がつてこられた姿、80代とは思えぬ足腰の強さを目の当たりにし、唾を唇にためながらの誠実なお話。しかし、時折、眼光鋭くムキになったように話される顔に迫力を感じ、親子のような私に、何を話しても思いが伝わるものではないと考えられておられるのではないかと想像。

## 私の思い出

### (小学校から大学院修士まで)

昭和32年、私が小学校入学直後の梅雨、父が国鉄の夜間仕事で雨に打たれ急性肺炎で倒れ、家の2階で寝ていました。私は父が心配で学校へ行かず家に居たら、和歌山市の紀三井寺から路面電車で通勤していた南校長先生が、停留場そばの私の家まで誘いに来てくれ、一緒に学校に行くようになりました。父は回復すると改装された映画館に連れて行ってくれました。のどかな時代でした。

小学2年生の時には長嶋茂雄さんが巨人

に入団。後楽園球場の開催試合年間入場者数が100万人から200万人に倍増、球場建て替え。草野球の子どもたちはほぼ番号3を付けていました。3年生の4月10日、皇太子殿下(現上皇陛下)の結婚式があり、父が質屋から白黒テレビを借りてきて、ご近所が集まって挙式パレードを見ました。昭和34年当時の流行歌、低音の魅力フランク永井の歌、ペギー葉山の南国土佐を後にして、民謡の高音三橋美智也の歌、今でも歌えます。父が歌好きで母は三味線を弾けました。隣が酒屋で家ではよく飲み会が開宴されました。中学2年生の東京オリンピック開会式は、それぞれの家庭のカラーテレビで見られる時代になっていました。

大学卒業の直前、昭和48年2月25日東京駅丸の内南口で、7年ぶりに市原市の五井製油所勤務の海南三同級生の女の子に再会しました。後日、上野の東京国立博物館のモナ・リザ展と一緒に鑑賞。あまりの人混みで初めて手をつなぎました。当時は世田谷区成城2丁目の木賃アパートの2階に、まさにかくや姫の「神田川」の世界。昭和50年に修士課程修了し帰郷、程なく結婚。

## その頃小野田さんは

陸軍中野学校で情報要員として教育を受けた後、玉碎は絶対に許さん、必ず迎えに行くと横山静雄師団長直々のゲリラ戦を指



除隊命令を受ける寛郎氏（宇賀部神社提供）



座右の銘「不撓不屈」の石碑の前で（宇賀部神社提供）

さんは次のような言葉を残しています。「最大なる味方は『笑う』『笑う門には福来たる』という。私はこの『笑う』ことで助けられた。慰めも、励ましも、弱気になる時、なった時、支えになる。しかし、それ以上に私の味方になってくれたのは、

『笑う』ことだった。『笑う』これだけでなえた心が鼓舞されるのだから。『笑う』それは、神、降臨の光なのかもしれない。私も笑うことが大好きです。家族でなればランド花月へ足を運び、大笑いしました。笑うと前向きになり、幸せになれる。小野田さんも大切にされた「笑う」と。いつの世も同じですが、先行き不透明で不安が大きい時代だからこそ「笑う」ことが大切です。市民の皆さんを笑顔にするために、微力ですが今後も市政に全力投球します。

導せよとの命令を受け、淡路島の半分くらいの広さで人口約1万3000人のルバン島に渡り、孤立無援の中、保健衛生の知識を持ちつつ野性生活の知恵も磨き、29年3カ月の間に93回討伐隊と遭遇し、最後は1人になっても闘い続けました。情報はかなり把握されていたようですが、軍事用語の不正確な表現の投降呼び掛けやビラなどを二セと錯覚し続けました。昭和34年、母校の小学3年生の私は、国の捜索隊に作文を託したのを覚えています。小学校挙げての作文でしたので、クラス皆で訳の分からぬままに「出て来て下さい」と書きました。在京時の私の記憶によれば、昭和49年2月下旬、東京タイムズが、私と歳が近い冒険家鈴木青年と小野田さんとの写真をスッパ抜いたので大騒ぎとなり、小野田さんはやっぱり生きていたんだと思いました。

## 「笑う」を大切に

海南市は「全国第2位鈴木木姓発祥の地」です。鈴木青年の名は「紀夫」。紀州和歌山の「紀」を名前に持つ「鈴木」さんが命がけて小野田さんを発見したのは、何か大きな縁があったのかもしれませんが。帰国してからも大騒動となりました。田中角栄首相からの100万円を靖国神社へ寄付、平和ぼけ、オイルショックなどの時代を経て、能天気さにあきれ、厚生省前で腹を切ると騒いで病院を飛び出し、最後の部下の島田・小塚両氏の故郷へ墓参し、老いた両親の待つ海南市へ戻るも落ち着かず、昭和50年4月上旬、次兄の居るブラジルへと旅立ちました。



ふるさと納税などを原資に復元進む鈴木屋敷と筆者

## を語る 1

とやま  
富山市（富山県）

富山市長 藤井裕久  
ふじい ひろひさ

# コンパクトシティ政策を「深化」 「コンパクト&スマート」なまちづくり

豊かさあふれる  
「くすりのまち」

富山市は、本州の日本海側のほぼ中央に位置する富山県の県庁所在地であり、平成17年に7市町村が合併して誕生しました。現在の本市の人口は約41万人、市域面積は1241・70km<sup>2</sup>です。

水深1000mの「海の幸の宝庫」富山湾から標高3000m級の北アルプス立山連峰まで、標高差4000mの多様な地勢と雄大な自然を誇り、また、古くから「くすりのまち」として全国にその名が知られるように、薬業をはじめとする製造業を中心にさまざまな産業と高度な都市機能を有しており、恵まれた産業基盤と都市基盤、多様な文化と歴史を併せ持つ、日本海側有数の中核都市とし

て発展してきました。

## コンパクトなまちづくり

本市では、本格的な人口減少や超高齢社会の到来を見据え、将来的にも持続可能な都市構造への転換を図るため、平成15年頃から「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」に取り組んできました。

具体的には、①公共交通の活性化



「コンパクトなまちづくり」の概念図

化、②公共交通沿線地区への居住促進、③中心市街地の活性化の3本柱の施策に取り組むことで目指す都市像の実現を図ることとしています。

①「公共交通の活性化」では、全国で初めて本格的な次世代路面電車（LRT）を導入したほか、路面電車の環状線化、鉄道高架下で富山駅の南と北を走る路面電車を接続するなどの事業を行い、公共交通の利便性向上に取り組んでいます。

②「公共交通沿線地区への居住促進」では、公共交通沿線居住人口を平成17（2005）年の28%から、令和7（2025）年には42%とする目標を掲げ、公共交通の利便性向上だけでなく沿線居住への補助制度を導入することなどにより、令和3



富山駅南北が接続された路面電車

年6月末時点で39・9%に達するなど、順調に目標へと近づいていくところでは、③「中心市街地の活性化」では、全天候型イベントスペース「グランドプラザ」の整備や路面電車走行空間のトランジットモール化などにより、郊外に流出したにぎわいがまちの中心部に少しずつ戻ってきています。

このように、本市ではコンパクトシティ政策を推進することで、目指す都市像を実現するとともに、持続可能な都市経営を行っていきたいと考えています。

## コンパクトシティ政策の深化

本市のコンパクトシティ政策によって、中心市街地の魅力が高まり、人口の社会増や地価上昇による固定資産税の増収など多くの成果が表れる一方で、中山間地域をはじめとする郊外に居住する市民からは「中心部ばかりが発展している」「自分の地域では利便性を感じられない」といった声が寄せられています。

このため、本市が今まで以上に選ばれるまちになるために、地方



富山市の市街地（富山平野）

都市としては恵まれた都市基盤を生かしつつ、市民生活の質や利便性をさらに向上させ、地域特性に応じた市内全域の均衡ある発展を目指す「コンパクトシティ政策の『深化』」を図ることが必要であると考えています。

## コンパクト&スマート

そこで、デジタル技術を活用して地域課題を解決し、新たな価値を創出するスマートシティ政策に本格的に取り組むこととしました。本市は、これまでも「富山市センサネットワーク」（居住人口の98・9%をカバーするセンサ網からIoTデータを取得できる環境を整備）など、先進的と言われるスマートシティ事業に取り組んできましたが、今後は市民目線で市民が求めるサービスを、そしてその効果を市民が実感できるように提供していきたいと考えています。現在、そのための指針となる「（仮称）富山市スマートシティ推進ビジョン」を策定中であり、コンパクトシティ政策を補完し、深化させるためのスマートシティ政策「コンパクト&スマート」を推進することで、市民サービス

を向上させ、コンパクトシティ政策の果実を市内全域に行き渡らせるとともに、どこに住んでいても不便さや不安を感じることはないまちにしたいと考えています。

一方、基礎自治体である市町村においては、フェイイス・トウ・フェイイスの住民サービスの提供が最も

重要です。デジタル技術ツールとしたスマートシティ政策を推進するとともに、フェイイス・トウ・フェイイスによるぬくもりのある行政運営に取り組むことで、誰からも選ばれる「幸せ日本一とやま」の実現を目指してまいりたいと考えています。

## プロフィール

- ◆ 面積 1241・70 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 41万425人
- ◆ 世帯数 18万3893世帯

〔将来都市像〕人・まち・自然が調和する 活力都市とやま

〔まちの特徴〕富山湾から北アルプス立山連峰まで、標高差4000mの多様な地勢と雄大な自然を誇り、農業をはじめとするさまざまな産業と、多様な文化・歴史を併せ持つまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日に、富山市、大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村が新設合併



富山市長  
藤井裕久



〔特産品〕ます寿し、かまぼこ、コシヒカリ、呉羽梨、ホタルイカ、シロエビ、富山えごま、越中八尾和紙、ガラス工芸品、とやま土人形、啓翁桜

〔観光〕富山城址公園、富岩運河環水公園、富山市ファミリパーク、富山市ガラス美術館、富山ガラス工房、有峰・薬師岳、神通峡、百間滑、白木峰、春日温泉郷

〔イベント〕全日本チンドンコンクール、越中八尾曳山祭り、猿倉山フェスティバル、おおよま佐々成政戦国時代祭り、熊野神社稚児舞、おわら風の盆、富山まつり、牛岳スノーフェスタ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

いのちと暮らしを守り  
共に生きるまち越谷へ

## 未来を創る

越谷市は、埼玉県東南部にあり、東京都心まで25km圏内に位置するベッドタウンとして発展してきました。人口は約34万人、面積は60・24km

で、鉄道や幹線道路が市の南北・東西に走るアクセスに優れたまちです。地形は全体的に平坦で、自転車での生活も便利です。また、各

鉄道駅の周りには住宅地や商業地が造られている一方で、その周辺部にはのどかな田園地帯も広がっ

ています。市の東部に

ある一般廃棄物処理施設「東埼玉資源環境組合（リユース）」の高さ80mの展望台からは、市内の様子を一望することができ、晴れた日には東京スカイツリーや富士山も見ることが出来ます。

そのほか、子育て世帯数の増加が大きい地域における小規模保育所の整備や、民間保育園の定員増

し支援するものです。

負担なしで預かり保育を行い、保育を行った分について市が園に対

し支援するものです。

そのほか、子育て世帯数の増加が大きい地域における小規模保育所の整備や、民間保育園の定員増

し支援するものです。

負担なしで預かり保育を行い、保育を行った分について市が園に対

し支援するものです。

負担なしで預かり保育を行い、保育を行った分について市が園に対



明るい未来に向けたまちづくり（子育てしやすいまち）

本市では、未

就学児における

待機児童対策の

独自の取り組み

として、「こしがや『プラス保育』

幼稚園事業」を実施しています。

この事業は、長時間の預かり保育

を行う私立幼稚園および認定こ

も園を、「こしがや『プラス保育』

幼稚園」として認定し、保育所な

どの利用基準を満たすお子さんを

「プラス保育枠」として原則保護者

負担なしで預かり保育を行い、保

育を行った分について市が園に対

し支援するものです。

そのほか、子育て世帯数の増加

が大きい地域における小規模保育

所の整備や、民間保育園の定員増

なども含めた保育環境の整備など、さまざまな子育て支援施策を実施することにより、子育てしやすいまちづくりを行っています。

水辺を活用したまちづくり  
（越谷レイクタウン）

河川空間の利活用について、河川をにぎわいのある場所として積極的に活用することを目的に、平成23年度に河川敷地占用許可準則が改正され、営業活動を行う民間事業者の河川敷地の利用を可能にする、いわゆる「河川空間のオープン化」が推進されております。

越谷レイクタウンの中心に位置する大相模調節池の広大な親水空間は、集客・交流の視点から大きな可能性があります。市ではこれまでに、観光協会や民間事業者などと連携し、大相模調節池周辺でス



越谷レイクタウンにある広大な水辺空間

ポーツ・ランニングイベントやイルミネーションイベントを開催し、住民が参加できるにぎわいを創出するとともに、水辺を活用して新事業を創出する社会実験を実施し、市内事業者が継続的に実施できるビジネスモデルの確立に向け、試行と検証を行ってまいりました。

また、本年8月27日には、大相模調節池の水辺活用を一層推進するため、「良好な水辺空間の形成」「にぎわいの創出」「地域との連携による魅力の向上」などの項目について、企画段階から連携して取り組むことを内容とする基本協定を、イオンモール株式会社と締結



市の中心を流れる元荒川（市役所屋上から撮影）



支援書交付式



越谷アルファーズ

いたしました。  
河川の商業利用によりにぎわいを創出する事業では、水辺活用をきっかけとして、地域が活性化する仕組みが大切な要素と考えております。引き続き、大相模調節池の広大な親水空間を生かし、魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。

## 越谷アルファーズへの支援

現在「第5次越谷市総合振興計画」において、いつでも、どこでも、誰もが生涯にわたり、スポーツ・レクリエーション活動に親しみ、自分らしく、いきいきとした、豊かな生活を送ることのできる環境の整備を目指しております。

その中で、市民の方々が少しでもスポーツに対する興味関心を高めるため、身近な場所でトップレベルのプロスポーツを観戦できるようなスポーツ観戦機会の充

実に取り組んでおり、その一環として、越谷市をホームタウンとするプロバスケットボールクラブ「越谷アルファーズ」に対し、毎年支援書の交付を行っております。

本市としては、越谷アルファーズのB2リーグでの活躍、さらにはB1リーグ昇格を期待しており、市の広報紙に越谷アルファーズに関する特集記事、シーズン中には試合結果や試合予定についての情報を定期的に掲載しているほか、越谷駅東口ロータリーのバスシェルター支柱への選手写真入り応援シートや、越谷駅から市役所に向かう駅前通りの街灯への応援フラッグの設置、市庁舎内へのポスター掲示および選手等身大パネルの設置など、市内施設において露出を高めることで、越谷アルファーズの認知度向上、応援機運の醸成を図ってまいります。

今後も越谷アルファーズと連携し、多くの子どもたちにプロスポーツの観戦機会や選手とのふれあいの場などを提供することで、子どもたちが健やかで心豊かに夢を追い続ける環境づくり、地元プロクラブへの愛着の深まりへとつなげてまいります。

## 関東最大級のいちご狩り 観光農園

平成27年に関東最大級のいちご狩り観光農園として、約1万90



越谷いちごタウンでのいちご狩り

## プロフィール

- ◆ 面積 60・24 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 34万4280人
- ◆ 世帯数 16万405世帯

〔将来都市像〕水と緑と太陽に恵まれたみんなが活躍する安全・安心・共生都市

〔まちの特徴〕河川などの自然に恵まれ、日光街道第三の宿場町としても栄えた、自然と歴史が融合したまち



越谷市長  
福田 晃



〔特産品〕越谷だるま、越谷ひな人形、越谷甲冑、越谷桐箱、越谷手焼きせんべい、太郎兵衛もち、越谷ねぎ、くわい、小松菜

〔観光〕越谷いちごタウン、越谷レイクタウン、花田苑（日本庭園）、コバトンの森（しらこばと水上公園）

〔イベント〕南越谷阿波踊り、越谷花火大会、こしがや田んぼアート、元旦マラソン大会

00㎡の農園に8棟のビニールハウスを備えた「越谷いちごタウン」がオープンしました。ベビーカーや車いすでも摘み取りやすい高設栽培でいちごが育てられており、さまざまな品種のいちごを食べ比べて楽しむことができます。本年度には隣接地に同規模のいちご農園が開園し、さらに広く、より多くの方にお楽しみいただけるようになります。近くまでいらした際にはぜひお立ち寄りください。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## 御殿場市（静岡県）

御殿場市長

勝又正美

## 富士山の懷に抱かれた高原都市

御殿場市は、静岡県の東部、世界遺産富士山の懷に抱かれた緑豊かな高原都市で、富士山頂まで及ぶ194・90kmの市域は、市街地・山林・陸上自衛隊の東富士演習場がおおむね3分の1ずつを占めて



市内全景

おり、首都圏から約100km、車で1時間圏内という好立地にあります。

「御殿場」という地名は、江戸時代、徳川家康公がこの地に御殿の造営を命じたことに由来します。

戦中戦後を通じて秩父宮様が住まいになり、岸信介元首相が晩年を過ごされ、映画界の巨匠黒澤明監督が別荘を構えるなど、多くの著名人に愛されてきました。

国内最大規模、約290店舗を誇る御殿場プレミアム・アウトレットや、御殿場高原ビールの有名な御殿場高原時之栖などのリゾート施設が立地し、コロナ前で年間140万人、現在は静岡市に次ぐ県内第2位の交流人口を有するなど、富士・箱根・伊豆交流圏の中心に位置する観光ハブ都市として発展しています。

### 御殿場の魅力投票2021

さまざまな魅力の再発見、地域のさらなる活性化に役立てようと、令和3年度に「御殿場の魅力」と思われる項目50点を選び、市民や市外在住者が投票する「御殿場の魅力投票」を実施しました。約1700の投票の結果、第1位は「世界に誇る富士山の絶景」でした。富士山は、今回投票者の9割以上が選んだ「御殿場の魅力」であり、シンボルです。

また、今回の投票結果で明らかになったのが「御殿場の水」の素晴らしさです。市民の投票で第3位、市外在住者で第9位にランクインしました。

本市では、富士山に降った雨や雪が地下に浸透し、自然

のろ過や浄化作用を受けながら適度のミネラルが溶け込むなど、富士山の涵養機能の恩恵を存分に受けた地下水を水道水として使用しています。

一般的な水と比較して、マグネシウムイオンやナトリウムイオンなどのミネラルが多く含まれているため、そのまま飲んでおいしいのはもちろん、米やわさび、ビールなど全ての食材の源となる御殿場の大きな自慢です。

今後は、この「御殿場の水」をキーワードに、産業振興、企業誘致、移住定住や子どもたちの環境教育につなげていきます。



魅力投票

## 「市民とともに歩む 情のある御殿場」

そんな富士山の恵みに育まれる本市では、「市民とともに歩む情のある御殿場」を掲げ、各種の施策に取り組んでいます。

一つ目に、「真の子育て支援日本一」に向けた取り組みがあります。人と人が思いやる、素朴でありながらも、子どもたちの成長を親御さんや家族が温かく見守り、それを地域や社会全体がやさしく包んでいくような、温かな、情のある地域社会の中で、子どもたちが誇りに思えるまちづくりを進めています。

木育の誕生記念品



それが、雄大な富士山の懷に抱かれた、御殿場らしいまちづくり、人づくりにつながる、人づくりにつながる、結婚、出産から乳幼児期を経て、小・中学校、高等学校から大学などへの進学といった各ステージにおいて、独自の取り組みを含めた切れ目のない支援を行っています。平成22年に

1・61だった合計特殊出生率は、令和2年には1・75へ飛躍的に上昇しました。

二つ目に、「環境に特化したまちづくり」です。

本市では、令和2年2月に県内自治体で初めて「ゼロカーボンシティ」を宣言し、富士山の麓から、国際社会の一員として、地球温暖化・気候変動問題を解決するための取り組みを推進しています。

再生可能エネルギーの導入やエネルギーの地産地消に関する取り組みとしては、可燃ごみ焼却時の余熱を利用して発電される電力を、全ての小中学校含む公共施設で使用し、電力のゼロカーボン化に取り組んでいます。

本年度からは、新たな施策として、御殿場の木の価値を高め、木のぬくもりを感じるまちづくり「木育」の取り組みを開始しました。御殿場産の木材を使用して、赤ちゃんの名前や生年月日などとともに、手形を刻印した唯一無二の記念品を保護者に贈呈する出産祝い事業を開始するなど、CO<sub>2</sub>吸収源ともなる富士山麓の森林保護につながる取り組みを進めています。

こうした取り組みによって、地

## プロフィール



御殿場市長  
勝又正美

〔将来都市像〕緑きらきら、人いきいき、交流都市 御殿場  
〔まちの特徴〕日本でも有数の名勝である富士山と箱根の間に位置する、緑豊かな自然環境に恵まれた高原都市  
〔特産品〕「こてんばこしひかり」、そば、水かけ菜、わさび、手作りハム、金華豚

◆ 面積 194・90 km<sup>2</sup>  
◆ 人口 8万5681人  
◆ 世帯数 3万7904世帯



豊かな森林環境

域の脱炭素化に向けた取り組みと経済活動が好循環する富士山麓の圏域づくり、富士山麓の森林環境の保全と環境先進地域「御殿場」のブランド化を実現し、静岡県が

認定する「地域循環共生圏」の県内第1号認定に向けて準備を進めているところです。

今年5月には、念願のSDGs未来都市に認定されました。富士山の懷に抱かれた豊かな自然、美しい景観、おいしい水やそこに住まう人々の心の温かさ。そうした富士山の恵みを守り、育て、一層暮らしやすいまちづくりを進めています。



〔観光〕富士山、御殿場プレミアム・アウトレット、御殿場高原時之栖、秩父宮記念公園、東山旧岸邸、富士山樹空の森  
〔イベント〕富士山太鼓まつり、御殿場わらじ祭り、秩父宮記念富士登山駅伝競走大会、三井住友VISA太平洋マスターズ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## 誰かが創る宇部じゃなく、みんなで創る宇部に ともに次の100年へ

共存同業の精神を  
未来につないで

宇部市の発展の礎は、明治期以降、石炭産業の振興により築かれました。強い郷土意識、強固な共同体的精神の下、石炭で得た利益をさまざまな社会事業に投資し、地域の基盤づくりが進められ、大正10年、「村」から「市」へと市制を施行しました。以降、「共存同業・協同一致」の精神（こころ）を育みながら、地域経済の発展を遂げ、令和3年に市制施行100周年を迎えました。

次の100年に向けては、「未来の種まき」を意識しながら、成長産業の創出・育成、未来を担う子どもたちへの支援、地域資源を生かしたまちの魅力発信に取り組むこととしています。

「産学公金」の総力を結集、  
成長産業を創出

瀬戸内有数の臨海工業地帯を形成している本市は、これまで培われた化学産業を基盤とした産業集積に加え、山口大学医学部や工学部などの高等教育機関、公的試験研究機関、さらには山口宇部空港が立地するなど、大きなポテンシャルを有しています。

そうした本市の強みを最大限に生かし、次代を担う成長産業の創出と育成を進めるため、令和3年5月に産学公金からなる「宇部市成長産業推進協議会」を立ち上げ、医療・健康や環境・エネルギー、宇宙産業、DXなどの次世代技術に関連する分野での起業や研究開発・事業化に向けた取り組みを積極的に支援しています。

具体的には、成長産業分野における起業や大学発ベンチャーの立ち上げを支援する全国トップレベルの支援規模（上限…1000万円）である「宇部市スタートアップ支援補助金」をはじめ、シーズの早期発掘から、研究開発の推進、起業までをシームレスに支援

する補助制度を令和4年度に創設し、衛星データを活用したインフラ監視事業を行う企業のほか、七つの研究開発プロジェクトに対する支援を行っています。

また、市民の憩いの場である「ときわ公園」では、広大な敷地を実証フィールドとして「次世代技術」「モビリティ」など、イノベーションや新たなビジネス創出に向けた実証事業「ときわ公園チャレンジ」（愛称…ときわチャレ）を本年度から実施しています。この取り組みには、全国から30事業もの応募があり、現在、選定された四つの実証事業が進む中、事業者によるサテライトオフィスの設置や、学生とのコラボレーションなど、新たな成果も生まれています。



東京ドーム約40個分の広さがある「ときわ公園」



ときチャレモビリティに市長試乗

## 子育てするなら宇部

次世代に向けた投資として、未来のまちづくりの主役である子どもたちの健やかな育成を応援することが大変重要です。特に、子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることがないよう、令和3年度には、法務省の「養育費不払い解消調査研究事業」の実施自治体となり、県内で初めて設置した「ひとり親家庭等相談窓口」で、法律相談や公正証書の作成費用の補助など、養育費を取り決めるための支援を開始しました。

事業開始から令和4年8月までに、養育費を支払わない相手への強制執行に向けた弁護士による強制執行申立を5件、司法書士による強制執行資料作成を5件実施したほか、同月からは、市役所と山口家庭裁判所をオンラインでつなぎ、調停手続きなどのサポートを



「まちじゅうエヴァンゲリオン」  
山口宇部空港

開始しています。

このほかにも、子ども医療費助成における所得制限撤廃や、生活困窮世帯を対象とした学習支援、空港のロケーションを生かした障害の有無に関係なく誰もが楽しめる大型遊具の設置など、「子育てするなら宇部」と全国に誇れる子育てのまちを目指し、安心して子どもを生み育てられる環境整備を進めていきます。

## まちじゅうエヴァンゲリオン発動

令和3年に公開され、興行収入100億円を超える大ヒットとなった映画『シン・エヴァンゲリオン劇場版』の総監督である庵野秀明氏は本市のご出身で、「宇部ふるさと大使」にも就任いただいています。同作の中で、本市が舞台のモデルの一つとして取り上げられたことで、映画公開以降、多くのファンが本市を訪れています。

この流れをチャンスと捉え、市では、フィギュア展などの開催やスタンプリー、グルメフェアなどを市内各所で展開するイベント「まちじゅうエヴァンゲリオン」を2度開催し、市内外からたくさんのお客さまをお迎えしました。

今後もこうしたイベントを通じて、宇部産の食材を使ったメニュー

やときわ公園、工場群の夜景など、本市ならではの魅力（観光資源）の発信と、本市の認知度の向上やにぎわいの創出にもつなげたいと考えています。

## 誰かが創る宇部じゃなく、みんなが創る宇部に

本市は、本年度から「共創によ

## プロフィール

- ◆ 面積 286・65 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 16万838人
- ◆ 世帯数 8万90世帯

〔将来都市像〕ひとが輝き交流ひろがるわたしたちの宇部（まち）「共存同栄の精神（こころ）」を未来につないで  
〔まちの特徴〕市内随所に彫刻が設置され、都市と彫刻が共存する「緑と花と彫刻のまち」

〔市町村合併〕平成16年11月1日、楠町を編入合併



宇部市長  
篠崎圭二



〔特産品〕ワタリガニ、活き車エビ、かまぼこ、お茶、地酒、利休まんじゅう、宇部ラーメン、赤間硯  
〔観光〕ときわ公園（動物園、世界を旅する植物館、彫刻の丘、石炭記念館、藤河内茶園、キワ・ラ・ビーチ  
〔イベント〕UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）、宇部まつり、新川市まつり、宇部市お茶まつり、TOKIWAファンタジア

るまちづくり」をキーワードに「第五次宇部市総合計画」がスタートしました。もっと暮らしやすいまちにするために、いつか帰ってきたくなるまちにするために、「誰かが創る宇部じゃなく、みんなが創る宇部」になるよう、地域を支えるさまざまな立場の方々と力を一つに、ともに次の100年に向かっていきたいと考えています。

※面積は国土院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



しろいし  
白石市(宮城県)

# 復活! 食味日本一のお米 「ササニシキ」

推薦者



市民経済部農林課  
さくらいだいき  
櫻井大輔さん

宮城県内でのササニシキの収量は全体の6%と希少となっています。白石市では、過去の食味調査で日本一に輝いた「白石産ササニシキ」を復活させようと、志を同じくした農業者が「宮城白石産ササニシキ復活プロジェクト」を平成28年3月に発足。安全・安心で高品質な米作りと、日本酒などの6次化商品の開発をしています。

冷めてもおいしい、どんなおかずにでも合うあっさりした食感。好きなおかずに合わせて、ご堪能ください。



|     |                                                         |
|-----|---------------------------------------------------------|
| 面積  | 286.48km <sup>2</sup>                                   |
| 人口  | 3万2,173人<br>(令和4年8月31日現在)                               |
| 特産品 | うめん<br>温麺、和紙、こけし、<br>米、ころ柿、日本酒、<br>もろきゅうり、牛乳、<br>牛、豚、鶏卵 |

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口は「住民基本台帳」による。



観光名所「白石城」と桜のツーショット!

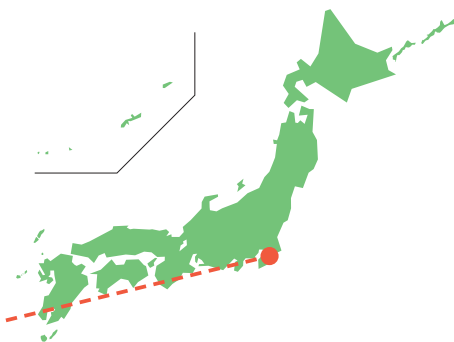
写真で見る

# 都市の変遷

今と昔の風景

地域の発展や変化にあわせて  
移り変わってきたまちの姿。  
今と昔を写真とともに振り返ります。

もばら  
茂原市(千葉県)



令和

4年

(2022年)

鉄道は高架化、駅前広場と一体的な駅へと変化



総務部秘書広報課  
広報広聴係  
よしの つかさ  
吉野 司さん

## 未来へつながる「交流拠点都市」もばらの実現へ

市制施行70周年を迎えた茂原市は、房総半島のほぼ中央に位置し、温暖で四季折々の自然と天然資源に恵まれ、農業・商業・工業のバランスがとれたまちです。発展とともに人口も増え、外房線の主要駅の一つである茂原駅は、昭和62年に鉄道高架と駅前広場が完成し、一体的なまち並みとなりました。

また、平成25年の首都圏中央連絡自動車道開通により、首都圏各地や空港へのアクセスが飛躍的に向上し、さらに令和2年にスマートインターチェンジが整備されたことで、生産や物流拠点としての魅力が高まっています。



昭和

53年

(1978年)

昭和53年の旧茂原駅前。周辺にはまだビルもない状況

# 市政

令和4年11月号

# 特集

## 若い世代との協働で実現する 活力ある、持続可能な地域づくり

まちの魅力向上や持続的な発展などを目的に、若者の地域参画の促進に努める都市自治体が増えています。

特集では、学識者から若者の地域参画が進んだ背景、自治体として求められる若者政策の具体例などについてご寄稿いただきました。また、若い世代の協力も得ながら進める新幹線開業に向けたまちづくり、若者の多様な興味に合わせたプログラムを実施し、まちづくりの担い手となる主体性を持った若者の育成を図る取り組み、進学・就職などで市外に転出した若者のふるさと回帰を促すため、地域との関わり合いを深める各種プロジェクトの推進など、若者の地域参画を促進してきた都市自治体の取り組み事例を紹介します。

寄稿 1

### 若者の地域参画の促進に向けて

福知山公立大学地域経営学部准教授 杉岡秀紀

寄稿 2

### 新幹線開業に向けたまちづくりと 若い世代との協働

敦賀市長 淵上隆信

寄稿 3

### 学生とつながる関の未来を共に創る

関市長 尾関健治

寄稿 4

### 未来へつながるまちづくり

宇和島市長 岡原文彰



# 若者の地域参画の促進に向けて

福知山公立大学地域経営学部准教授

すぎおかひでのり  
杉岡秀紀



## はじめに

本特集のテーマである「若い世代との協働で実現する活力ある、持続可能な地域づくり」、とりわけ若者の地域参画が進んだ背景はいろいろ考えられるが、平成18年の教育基本法改正、平成19年の学校教育法改正により、大学のミッションに社会（地域）貢献が追加されたことが、この動きに拍車をかけたという点で大きい。

より正確には、平成17年の文部科学省の中央教育審議会の答申「我が国の高等教育の将来像」において「大学は、全体として1. 世界的研究・教育拠点、2. 高度専門職業人養成、3. 幅広い職業人養成、4. 総合的教養教育、5. 特定の専門的分野（芸術、体育等）の研究、6. 地域の生涯学習機会の拠点、7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）等の各種の機能を併有するが、各大学ごとの選択により、保有する機能や比重の置

き方は異なる」と言及されたことが嚆矢となり、教育関連法が改正され、教育、研究に加えて、社会（地域）貢献が大学のミッションとなった。すなわち、若者の地域参画もこの時期を境に事例が多く生まれるに至ったと見ることができよう。また、本年度は高校レベルにおける新学習指導要領の実施年となり、これまででは一部の高校で行われていた「総合的な探究の時間」が全ての高校で行われることとなった。これも今後若者の地域参画を推し進めるための追い風となるだろう。

蛇足であるが、若者向けの法律（政策）というの基本的には、（1）児童向け（「児童福祉法」や「児童虐待の防止等に関する法律」「母子及び父子並びに寡婦福祉法」「児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律」「インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律」など）、（2）青少年向け（「青少年が安全に安心してインターネットを

利用できる環境の整備等に関する法律」など）、（3）子ども向け（「子ども・子育て支援法」など）、（4）子ども・若者向け（「子ども・若者育成支援推進法」など）はあるが、主たる対象は中学生までであることが多い。高校生以上になると急に減り、大学生以上になるとほとんど対象外となる（松下2021）。その意味で、若者が地域参画するか否かは高校、大学、何より自治体の政策に委ねられる側面が想像以上に大きい。

## 学生と社会（地域）貢献

事実、平成19年度あたりから各大学で地域連携センターや社会連携センターといった、地域連携のための付属機関や地域系の学部学科が増え、大学と自治体による包括協定事例も増加した。また、近年は総務省による「域学連携事業」や文部科学省による「地（知）の拠点整備事業（COC）」、同「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」など、

地域連携を促進させるための国の支援策が多く登場するようになった。また、日本経済新聞社が実施する「大学の地域貢献度全国調査」が、大学に善政競争を促した影響もあろう。

ともあれ、こうした外部環境の変化により、地域に飛び出す若者が増えたと推察される。

何より注目したいのは、こうした大学による社会（地域）貢献の中でも、学生による取り組みの割合が昨今増えていることである。平成30年に公表された文部科学省の「平成29年度開かれた大学づくりに関する調査研究」によれば、地域社会に対する大学の貢献の取り組みについて、上位三つは（1）公開講座を実施すること（97・1％）、（2）教員を外部での講座講師や助言者、各種委員として派遣すること（91・8％）、（3）社会人入学者を受け入れること（87・5％）となっているが、4番目に多いのが「学生の地域貢献を推進すること」（85・3％）となっている。また、この項目は「平成23年度開かれた大学づくりに関する調査研究」の63・5％と比較してみると、その差21・8ポイントであり、この間最も伸びていることが分かる。すなわち、大学による社会（地域）貢献のメニューの中でも、今日トレンドや主体の変化が起きつつあり、大学や教員主導から学生主導に徐々に移行しつつあることが本調査結果からうかがえる。

それでは、こうした時代の変化を受け、以下では自治体として求められる若者政策のヒ

ントになり得る具体例を2例ほど紹介したい。

## 自治体として求められる若者政策

### （1）愛知県新城市「若者議会」

愛知県新城市（人口4万4041人。本年9月現在）では、平成26年度に制定された「新城市若者条例」「新城市若者議会条例」に基づき、若者が自ら地域を取り巻くさまざまな問題を考え、話し合ったことを市長に答申する「若者議会」を創設している。きっかけは平成24年にイギリスのニューキャッスル・アライアンス会議に参加した新城市の若者が、欧州では予算提案権のある若者議会があることを知ったことに始まる。その後、前市長が「若者が活躍できるまち」を目指すことを表明し、先の条例化に至った。なお、役所内に「若者政策係」も設置された。

若者議会は本年度で8期目を迎えているが、今期のメンバーは市内の若者（おおむね16～29歳の在住・在学・在勤者。報酬は日額3000円）20人と市外の若者5人の計25人の委員で構成される。本物の議会を模し、議場での所信表明も実施され、議長や副議長も置かれる。スケジュールは、毎年5月に市長が若者総合政策の作成および実施に関する事項を若者議会に諮問し、約7カ月の全体会および委員会（PR委員会、交流委員会、観光委員会など）での審議や中間報告を経て、11月に若者が立案した政策案を答申する。そし

て、この答申された政策案を市長が検討し、当該年度の3月議会で承認されれば、翌年度実施されるという流れである。

本例の特徴は二つある。一つは政策の立案に当たっては新城市の若者だけでなく、市外委員や市民メンター、メンター職員、事務局が伴走する仕組みが出来上がっていることである。なお、このメンターの中には過去の若者議会の経験者もいるという。これは人材育成の面からも理想的と言えるだろう。二つは、若者議会では、若者（委員）が市長に対する1000万円の予算提案権を持っていることである。6期までだけでも既に累計36事業が実現し、例えば、1期生が立案した図書館の改善提案により、設備のリノベーションや図書の見せ方などが工夫された結果、利用率や利用者満足度、貸出冊数の増加につながったという。

ちなみに本例は平成28年度の「第11回マニフェスト大賞」にて「最優秀シティズンシップ推進賞」を受賞したり、本年度発行の高等学校公民科教科書にも取り上げられたりしている。まさに全国レベルにおける若者政策の先進事例と言えるよう。

### （2）京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会

#### 「高校生みらい会議」

京都府北部は福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町の5市

2町からなる地域（人口27万6249人。令和2年10月1日現在）であるが、平成27年度に5市2町による京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会が創設され、広域連携による政策づくりが進められている。この協議会には産業部会、観光・交通部会、教育部会、移住・定住部会、環境・防災部会、行政運営部会の6部会が置かれ、このうちの移住・定住部会が令和2年度に立ち上げたのが小稿で取り上げる「高校生みらい会議」である。

高校生みらい会議のメンバーは管内の高校生で、1年目である令和2年度は公立5校、私立3校、計8校から20人、2年目（令和3年度）は公立10校、私立2校、計12校から24人、3年目（本年度）は公立8校、私立1校、計9校から20人の参加者があった。

1年目こそ1日限りの単発事業で終わったが、2年目以降は「関係性構築→共同作業体験→地域や学校を超えた7市町の高校生が主役となって今後やってみたいことのテーマおよびグループ決め→現地調査→小さな実践および中間発表→成果発表」と1年を通して事業展開している。コーディネーターは筆者が務め、アウトプットだけで終わらないよう、毎回外部講師による話題提供（インプット）の機会もつくっている。なお、各グループには大学生と市職員がメンター役として伴走し、3年目からは日常的なやりとりができるよう

Stack（ビジネスに特化したチャットツール）も導入している。

本例の特徴は大きく2点ある。一つは高大社連携の視点である。具体的には、大学生や自治体職員、すなわち高大社連携で高校生を応援することで、高校生が提案だけでなく、実際に事業実施するまでをフォローする体制を構築している。換言すれば、社会全体で若者が自らの地域に足跡や爪痕を残すことを応援し、いったん地域を離れても、地域に戻りたいと思えば戻れるという選択肢を提供しようとしている。二つは地域の広域性から得られる視点である。最近の高校生はそもそも居住地域と通学する高校の立地地域が違うことが当たり前になっているが、広域の地域で1年間活動することを通して、高校時代から広域視点で地域を歩き、見て、聞くという経験をしたり、地域を相対的に見るまなざしを提供できていると考えている。

### おわりに―意義と課題―

敷田麻実氏（2009）は、よそ者が地域づくりに参加することには、（1）地域の再発見効果、（2）誇りの涵養効果、（3）知識移転効果、（4）地域の変容を促進する効果、（5）しがらみのない立場からの解決案の提案、という「よそ者効果」があると指摘した。小稿で注目した若者は必ずしも「よそ者」ではない。し

かし、実態として家と学校を往復するだけの生徒や学生は多く、「よそ者の側面」があるのも事実である。また、大学がないまちでは、良しあしは別として「若者」よそ者予備軍である点も見逃せない。その意味では、この「よそ者効果」とは、期待も込めて「若者効果」と読み換えることができ、その効果は広く地域にもたらされる可能性があるのではないだろうか。

いずれにせよ、これからの持続可能な地域づくりのためには、若い世代との協働は欠かせない。そのためには、若者が市政や地域に気軽に関わるスキーム、あるいは隙間がどれだけあるかが今後より問われることになる。そうした構想力や伴走力あふれる首長や職員、地域が今後を増えることを祈念し、筆をおくこととしたい。

#### 参考文献

- ・松下啓一（2021）『自治するまちのつくり方―愛知県新城市の「全国初の政策づくり」から学ぶもの―』イマジン出版
- ・日本経済新聞社（2021）『大学の地域貢献度全国ランキング2021』『日経クロール』10月4日号
- ・文部科学省（2018）『平成29年度 開かれた大学づくりに関する調査研究』
- ・文部科学省（2012）『平成23年度 開かれた大学づくりに関する調査研究』
- ・敷田麻実（2009）『よそ者と地域づくりにおけるその役割にかんする研究』『国際広報メディア・観光ジャーナル』9、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院、pp.79-100

# 新幹線開業に向けたまちづくりと若い世代との協働

つるが  
敦賀市長(福井県)

ふちかみたかのぶ  
淵上隆信



## 敦賀市の概要

敦賀市は、古くから天然の良港として知られ、古代から大陸文化の玄関口として栄えてきました。

日本海側で最初に鉄道が開通し、明治32年に敦賀港が開港指定されると、対岸諸国と定期航路が開設され、シベリア鉄道を經由して、欧州に直結される欧亜国際連絡列車が運行されるなど、交通の要衝として発展してきた歴史を持つまちです。

令和6年春には、北陸新幹線敦賀開業が予定されており、交通の要衝として発展してきた本市は、新たな高速交通網の整備により、「100年に1度」とも言われるまちづくりの好機を迎えています。

## 北陸新幹線敦賀開業に向けた取り組み

本市は、北陸新幹線敦賀開業に向けて、総仕上げの時期を迎えています。開業まで1年半を切った今、近隣市町それぞれの取り組みを連携させ、広域的観光を創り上げていかな

ければなりません。

私が就任した平成27年に、北陸新幹線開業が3年前倒しされました。

それまで、本市は関係各所への要望活動や折衝は全くといていませんでした。当時は、「口を出せば負担を負うことになる」という他人任せなスタンスが強く、新幹線開業を自分事として受け止めていない状況でした。

私は、まちの発展の好機をそのような考え方で逃してはいけなと、すぐに動き出し、県へ相談に行きました。計画では、現駅から約60m奥にある7番線乗り場から、さらに60m先に新幹線のホームが来ることになります。また、新幹線駅舎の正面には川が流れていて、その間は50m程度のスペースしかありません。現駅の真上に新幹線ホームを持つてくることができれば、今までの駅前が新幹線駅の出入り口になります。しかし、既に新幹線敦賀駅のホームの位置は決定していたため、動かすことはできませんでした。

次にできることはと考えると、商業・観光施設や生活圏が集中している現駅の西側へ、

いかに来訪者を誘導できるかということになります。

新幹線ホームと現駅は約200mの距離があり、このままでは来訪者が西側に来ない可能性がありました。この課題解決のため、関連機関に要望活動が続けました。その結果、ムービングウォーク(動く歩道)の導入が決まり、来訪者が快適に移動できる動線を確保しました。

また、来訪者を観光地に誘導するため、乗り換えコンコースに観光案内所を設けようと、JRなどへ要望しましたが、新幹線駅内での旅客の安全かつ円滑な通行を考慮すると設置は困難とのことでした。その代わり、特大デジタルサイネージ(高さ2・8m×幅10・0m)を設置できることになり、これは広域観光に向けて、福井県嶺南6市町で共同設置、運営することにしました。

新幹線工事は現在、厳しい工期の中、順調に進んでいます。新しく造成する東側の新幹線駅前広場の整備は本市が行います。駅舎工事がおおむね完了してから本格着手となりま

すので、関連する工事との協議、調整を行いながら、工期内の完成を目指しています。

## オンリーワンを目指して

本市には、平成18年にJR北陸本線・湖西線の直流化が行われ、敦賀駅が関西方面からの新快速電車の最終駅となったのにもかかわらず、にぎわいにつなげきれなかった苦い経験があります。

ここから得られた教訓は、敦賀駅で降りてもらうには、目的となる場所でなければならぬということです。

観光名所として発展していくために、ナンバーワンとオンリーワンという考え方がありますが、本市はオンリーワンを磨き上げることにしました。

ストーリー性があつて、まちの雰囲気を表し、そして国際的な広がりがあるものとして、ポーランド孤児やユダヤ難民を優しく受け入れた歴史があり、「人道の港 敦賀」優しい日本人がいた場所」をテーマに施策を展開しました。

当時、中国や韓国で、第2次世界大戦における日本批判が強く出ていましたが、「日本人は優しかった」ということを、敦賀の歴史を通じて世界に発信したい」と訴えていたことが国にも認められ、伊勢志摩サミットのサミットバッグの中に入る記念品の一つとして、人道の港のエピソードのシンボルである、リング型タオルを採用していただき、本市の歴史を世界にPRすることに成功しました。

また、平成29年3月に、国土交通省が「景観まちづくり刷新モデル地区」を全国から10カ所選定しましたが、このモデル地区にも本市が選ばれ、人道の港のエピソードを伝える資料館である「人道の港 敦賀ムゼウム」のリニューアルや、北陸道総領守である氣比神宮から敦賀駅までの道路整備（国道8号敦賀空間再整備）などを行うことができました。

これらの取り組みにより、本市に來ないと体験できないオンリーワンの魅力を磨き上げることができました。

## もう一つの魅力づくり

一方で、観光の目的地として「いつまで継続できるのか」ということが課題として出てきます。

以前、敦賀赤レンガ倉庫に來たバスガイドさんに「来年も來てくれますか？」と尋ねてみました。

答えは「去年も來たから来年は來ない」ということでした。カニを食べにくるのは毎年でいいけど、見るところは変えないと不満が出るということです。

このやりとりを通じて「食は強い」と実感し、カニの他にも、敦賀のうまい物を作ることでできれば、観光客の誘致ができると考えました。

折しも、敦賀真鯛をブランド化して広めたいという漁師の方々に出会い、敦賀ふぐと合わせて発信に力を入れました。全国的な知名度はまだですが、北陸の透明な海で

育った海の恵みとして、敦賀真鯛と敦賀ふぐの認知度は少しずつ広まっています。

また、かつては北限のミカンであった東浦みかんについて、高齢者と障がい者が協働する農福連携の仕組みを作って発信したところ、飛ぶように売れています。

これらの取り組みは一例ではありますが、オンリーワンの魅力と合わせて、敦賀を飽きさせない仕組みづくりを進めています。

## 商業へのいざない

さて、観光客の受け皿として、商業の振興は重要ですが、商店街の空き店舗、後継者不足は、深刻な問題です。

商売をする方を増やすためには、敦賀で成功体験をしていただくことが近道と考え、福井国体の前年に行われたプレ大会で仕掛けを行いました。

会場でテントを張って出張販売をしてくれる人を大募集し、1日で弁当が100万円売れたという話を聞き、大いに宣伝しました。国体本番は天候に恵まれませんでした、「外に出て売るともうかる」と感じてくれた人も多かったと思います。

また、コロナ禍による飲食店の応援の一環として、ケータリングカーの補助をしています。

以前から、各箇所の駐車場整備の中で、上下水道と電源の確保を行うとともに、先述の国道8号敦賀空間再整備の区間の一部を、ほこみちとして本年度から指定していただき、イベントなどに利用しやすい環境を整え



「人道の港 敦賀ムゼウム」のガイドを行う高校生

ています。

これらが功を奏し、第2土曜日を中心に、自然発生的にイベントなどが開催され、商店街を回遊する家族連れの姿も増えてきました。固定客ができ、なじみができてくることで、本市に軸足を置く商店主が増えることを期待しています。

### 高校生たちの活躍

これまで紹介した施策には、高校生たちが協力しています。

まず、人道の港 敦賀ムゼウムでは、市内の高校生が「創生部」という部活を組織し、観光ボランティア

をしてもらっています。

この高校生たちは、人道の歴史を後世に伝えるために、自分たちがやらなくてはという意識を持って、年間を通じた活動をしており、赴任直前の駐カナダ日本国特命全権大使や駐日イスラエル特命全権

大使の方々と意見交換を行うなど、本市のオンリーワンの地域資源を市と一緒に世界に発信していただいています。

また、本市では市内商業店舗の情報を発信する「敦賀ネットモール」というECサイトを運用していますが、ここでも、高校生たちが、市内店舗のモニタリングを行い、その柔らかな感性で、ネットモールやSNS上で店舗や商品の魅力を全国に発信する活動を行っています。

コロナ禍の中で、行動も制限されていますが、本市の施策に若者が積極的に参画し、まちの活性化に力を注いでくれています。

### 最後に

(TSURUGA POLT SQUARE [otta] 紹介)

最後に、本年9月、敦賀駅前にオープンした「otta」(オッタ)について紹介させていただきます。この施設は、敷地を本市が提供し、民間が施設の運営を行っているもので、飲食・物販施設やホテルが集まった複合的な施設です。

施設の中には、テナントとして「ちえなみき」という公設書店も入っており、書店の中であるにもかかわらず、お茶やコーヒーが飲める、子どもを遊ばせるスペースがあるといった施設で、人気の空間となっています。で、敦賀にお越しいただく際には、ぜひ立ち寄りください。



TSURUGA POLT SQUARE 「otta」(オッタ)

また、ここでも高校生がSNSの公式アカウントの運営に協力をいただく予定であり、若者が市の施策の後押しをしてくれています。新幹線開業に向け、本市がこれまで紹介してきた施策のように、各市町では、それぞれ磨き上げてきたものがご紹介します。

これらの資源を改めて連携し、若者の力も借りながら、それぞれの魅力を発信し、季節を変えて、目的を変えて、もう一度来てみたいと思っただけのような広域的なまちづくりを進めてまいります。

# 学生とつながる関の未来を共に創る

関市長（岐阜県）

尾関健治  
おぜきけんじ



関市は、日本列島のほぼ中心・岐阜県の中南部に位置し、全国的にも珍しいV字の市域を形成している。古くから日本刀の産地として知られる「刃物のまち」で、その技法や工法は、脈々と受け継がれ、世界に誇る産業資源となっている。市内には市立高校1校、県立高校2校、大学および専門学校3校が立地しており、少子高齢化によりまちづくりの担い手が減少する中、各学校の知的資源を生かすことや、多くの学生（高校生など「生徒」を含む）がまちづくりに参画することが求められている。

本稿では、本市で進める若者活躍施策のうち、高校生・大学生を対象とした事業を中心に、その経緯や今後の展望について取り上げたい。

## 市民による政策提案から始まった若者事業

本市では、平成24年4月に「関市協働のまちづくり指針」の策定、平成26年12月に「関市自治基本条例」を施行し、「自分たちのことは

自分たちで決める社会」の実現を目指した地域づくりに取り組んでいる。その具体的な取り組みの一つが、平成24年9月より開始し、今年で10年を迎えた、市民による政策提案を行う「関市まちづくり市民会議」である。これは、毎年全員公募による市民で委員を構成し、三つの課題に対してチームに分かれて1年間会議を重ねた後、発表会において市長へ政策提案を行う取り組みで、採択された提案については、実際に担当部署の事業の中に盛り込んでいく。

平成27年7月、「第3期まちづくり市民会議政策提案発表会」において、「若者が地域で活躍できる場が少ない」という課題に対し、「若者が地域で活躍できるような事業の実施」が市へ提案された。この提案の採用により、平成28年4月、市内在住・在学の高校生を対象とした「まちづくり倶楽部」がスタート。「関市スイーツランキングを作ろう」「THE HAMONO QUIZ SHOW」など、本市の魅力を知り、体験できるようなイベントを毎月開

催したところ、1年で延べ101名の高校生が参加した。

平成29年4月、若者がより自由に、かつ、主体的にやりたいことに取り組めるように、従来の「まちづくり倶楽部」をブラッシュアップさせた、高校生によるチーム体制「VSPプロジェクト」を始動。Vは地域の形状を、Sは関市の頭文字を指し、この名称もメンバーが主体的に話し合って決めたものである。内容としては、①自分たちのやりたいことを形にすることを目的に、チーム体制で主体的な事業の企画・実施に取り組む「自主企画」②事業やイベントなどにおいてメンバーに対してミッションを与え、高校生ならではの視点で取り組む「ミッション型プログラム」③全国各地の高校生団体との交流を通して自身の視野を広げる「他団体との交流」の三つのテーマを軸として、1年間活動するというものである。

## 若者の対象を広げるために

平成30年4月に、本市のまちづくりの指針



VSプロジェクトメンバーと市長

となる計画である「関市第5次総合計画」を策定し、その中で「産業」を鍛え、「学び」を伸ばし、「文化を磨き」、未来を切り拓く「協働」のまち「#Smart SEKISM」を将来都市像として掲げた。「人・まち・暮らし」の視点からまちづくりを進めることで、「豊かさ」を生み出していくことを目指している。

また、この第5次総合計画において、新規事業として導入したのが「若者活躍推進事業」である。「まちづくりの担い手となる主体性を

持った若者の育成」を目的に、若者の多様な興味関心に合わせたプログラムを実施することを目指して、VSプロジェクトの継続と若者を対象とした新規事業の立ち上げに取り掛かった。

当時、高校生を対象とした事業はあったものの、大学生を対象とした事業が全くなかったため、本市近郊の大学生を対象とした地域滞在型ゼミ「せきさらぜみ」を開催。このゼミでは「関でみつける、関からはじまる」をテーマに、市内各地を巡りまちづくりに携わる方々との交流や、本市の特産品であるしいたけやパッションフルーツの収穫、観覧船に乗船しての小瀬鵜飼の見学など、本市ならではの体験を通して、これからの地域と自分の関係について探っていく。参加者は3泊4日で寝食を共にするため、あつという間にお互いの距離が縮まり、本音で「せきさら」に語り合えることから、本市に愛着をもってもらうことが狙いである。

2年目となったVSプロジェクトは、他団体との交流に力を入れた。全国各地で地域活動に取り組む高校生団体が交流する「全国高校生まちづくりサミット」の第3回目を本市で開催した。サミットの前半は各団体の活動発表を行い、後半は高校生自身がコマとなって進めるオリジナルのボードゲーム「関市体験リアルすごろくゲーム」を実施し、本市にまつわるクイズやゲームに挑戦しながら交流を深めた。本市が若者活躍推進事業に力を

入れていることを、多くの方に知ってもらいきっかけとなった。

### 時代の変化に合わせて 多様なニーズに応える

令和2年に入ると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面でのさまざまな事業の実施が困難になったが、若者活躍推進事業では早くからオンライン会議システムを最大限活用し、コロナ禍でも中止することなく全ての事業を実施してきた。

VSプロジェクトは、オンラインミーティングを重ねてメンバー間の親睦を深めていく中で、全国の高校生がお勧めの地元グルメをお中元として贈り合い、お互いにSNSで感想などを発信してPRをする「全国高校生お中元プロジェクト」に参加した。せきさらぜみは、時期をずらして自宅にしながら本市を体感できるよう、ゲストとなる移住者や事業者にまつわる地場産品を事前に郵送し、リモートで一緒に体験しながら対話するプログラムを企画し、オンライン開催へ変更した。

また、「3市広域連携協定」を結ぶ本市と近隣の美濃加茂市、各務原市にある高校が「地域探究活動」をテーマにポスターをそれぞれ作成し、交流を行う「高校生地域探究活動ポスター交流会」を新規事業として予定していたが、対面での開催が中止となり、代替案として各校でポスター展示を行い、感想を送り合うことで交流を図った。



オンライン開催に変更したせきららゼミ

高校生による本市の特産品である「円空さといも」を用いたドーナツの製造・販売や、市内企業を巻き込んだスタンプリリー、マルシェの開催、大学生による廃材を活用した小学生向けのワークショップの実施など、若者自身の「やってみたい」が形になって

令和2年8月からは、「関市若者まちづくり団体・まちづくりプレーヤー登録制度」を導入。主体的に地域で活躍する人材を育てるために、登録制による若者のチャレンジの見える化と、活動に関する相談や必要な物品の手配など、若者のプロジェクトをサポートする仕組みづくりを行っている。それに伴い、同年11月には「若者チャレンジ支援コーディネーター」として任期付職員を採用し、若者の活動に対するアドバイスなどの人的支援も行った。

現在は、個人2名、団体3組の登録があり、

いく姿を見ることができた。

コロナ禍で、多くのイベントが中止となった中、対面にこだわらず、オンライン開催をしたことで、外に出られず時間を持て余していた学生に、地域に触れる機会を提供することができた。このころから、イベントへの参加だけでなく、その後も本市と何らかの形で関わってくれる学生が増えてきた。

つい関わりたくなる、

持続可能な関のまちを目指して

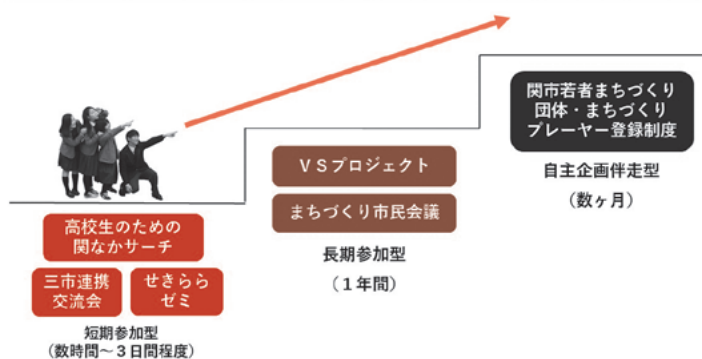
本市における若者活躍推進事業は、「まちづくりの担い手となる主体性を持った若者の育成」を目的に、若者の多種多様な興味関心に合わせたプログラムを実施するとともに、若者の活動の見える化(情報発信)と活動支援を行い、若者から自身の「やってみたい」を実現できるまちとして、本市が定住先に選ばれたいことを目指している。

変化が激しく先の見通しを立てにくい社会情勢に加えて、少子高齢化が加速している中、「関市に住み続けたい」「関市というまちを残したい」という思いを持つ人材を増やしていくためには、10年後、20年後の地域を担う学生への支援が必要不可欠となる。

進学や就職、結婚、子育てなど人生の岐路に立たされたとき、本市が居住地の選択肢に入るか否かは、在住・在学時にどんな経験を

## 図 本市における若者活躍推進事業の分類

### 関市で若者の「やってみたい」を形にするステップ



しているかが重要な鍵となると考える。暮らしや遊びの中で、楽しかった記憶や成功体験を積み重ねていけば、地域愛の醸成につながり再び本市を訪れるきっかけになる。

学生時代にまいた種がいつ芽を出し、花を咲かせるのかは個人差があり予測できないが、一人一人のタイミングで本市に関心を持ち、地域づくりに関わりたくなる日が来ると信じて、これからも若者活躍推進事業を進めていきたい。

# 未来へつながるまちづくり

宇和島市長（愛媛県）  
うわじま

岡原文彰  
おかはらふみあき



## はじめに

宇和島市は、今から約400年前、仙台藩主・伊達政宗の長男である秀宗が入部し、以来、宇和島伊達家10万石として栄えた城下町で、現存12天守の一つである宇和島城や伊達博物館をはじめとした歴史遺産や伝統文化を今に残している。また、市の西側は宇和海に面し、複雑なりأس式海岸が続き、柑橘王国愛媛の中においても中心的な産地を占めているほか、魚類、真珠の養殖においても日本有数の産地となっている。

このような魅力あふれる本市だが、大きな企業や大学などの高等教育機関が少なく、多くの若者が高校卒業後に進学・就職などで市外に転出している状況となっている。そのため、若い世代の本市に対する意識を変えて、一度は市外に出た若者が宇和島に帰ってくる、また、宇和島にいる若い世代がこれからも地元で活躍できる仕組みづくりが求められている。

## 若い世代との協働への取り組み

これまでの本市は、若者の居場所や活動場所、世代を超えた交流や若者が地域と接する機会などが少なく、多様なキャリアに触れる機会も少なかったため、生まれ育った地元への関心が希薄となり、地域の魅力も十分に伝えられていない状況にあった。

これらの問題を解消すべくさまざまな取り組みを行ってきたが、その一部を紹介する。

### ① おかえりプロジェクト

本市では平成30年度から「ふるさと」「地域との関わり合い」「思い出づくり」「繋がり」の継続」をキーワードに、四つのプロジェクトからなる「おかえりプロジェクト」として、子どもたちの郷土愛醸成に力を入れている。

#### ① 高校生まちづくり課プロジェクト

「若者が地域に残れる・帰れるまちづくり」をテーマとし、市内の高校生の参加を得て「高校生まちづくり課」を開設し、ワーク

ショップなどを通じて提案したアイデアの事業化を、県内の大学や金融機関などの協力を得ながら目指すプロセスにおいて、直接まちづくりに参画することで「地域との関わり合い」を深めるとともに「ふるさとへの想い」を



ワークショップの様子

強くすることを目的として取り組んでいる。

具体的な取り組み例として、宇和島の産業や自分たちが考える宇和島の魅力、課題などについて、大人たちと対話しながら、多くのアイデア出しを行った上で「うわじま圏域ビジョンマップ」を平成30年に作成し、翌年度には、その改善策としてブランドブックの設計を行い、それを基に、製作したい商品のプレゼンテーションを各校の生徒が行った。

今後は、さらに検討を重ねながら、オリジナル商品を生み出し販売することで、地域活性化につなげるべく大きな目標を掲げて取り組んでいる。

## ②誇れるものポケットブック「ガйна」作成プロジェクト

若者が「自分が生まれ育ったまち」の誇れるものや魅力を知り、郷土愛を醸成することによって、「将来また宇和島に帰りたい」という気持ちを引き出すことを目的に、宇和島の魅力などを詰め込んだ手軽に持ち歩けるポケットブックを作成し、市内の高校3年生に配布している。

宇和島の雑学や習慣なども取り入れており、大学進学や就職時に「自分が生まれ育ったまち」について誇りを持って説明や紹介ができるようにしてもらいたいと考えている。

## ③ケーブルテレビを活用した「学校自慢CM大賞」プロジェクト

地元ケーブルテレビ局の協力で、自らが通

う小中学校またはその地域の特色や伝統、ユニークな取り組みなどを「学校の自慢やPR」動画として制作し、審査・表彰するとともに、全ての作品を放映することで、学校や地域の魅力を発信している。

## ④「未来つながる宇和島」配信・サポータープロジェクト

高校卒業後、市外へ出て行く若者に対して、いつかは帰りたいと感じてもらえるよう、市内の最新情報・就職情報・トピックスなどを、SNSを活用して定期的に配信しているところである。また、若者の保護者や地元の友人などに対しても、同じ情報を発信し、二方向からのアプローチを図ることで、故郷を離れた若者と地元とのつながりの強化を目指している。

併せて、本事業のSNSフォローワーを中心とした東京でのオフ会を開催することで、関係人口の拡大にも取り組んでいる。

本プロジェクトは開始から5年が経過し、進学した若者が大学などを卒業する時期となることから、これまでの取り組み内容や効果を検証するとともに、若者のニーズを踏まえて改善を図りながら、プロジェクト相互の連動やブラッシュアップを図っていく。

## (2) 青少年市民協働センター事業

移転した図書館跡を活用して、令和2年度から「青少年市民協働センター（通称・ホリバタ）事業」として、「ふるさと宇和島」を未来につなげるために、個人、団体、企業と行政が協働して、若い世代（中学生～30代）を中心とした「人づくり」と、市民活動団体の支援を通じた「地域づくり」に取り組んでいる。

### ①活動拠点としての居場所づくり

「家、学校、ときどきホリバタ」をコンセプト



ラウンジの様子(ホリバタ)



うわじま∞あいだいプロジェクト

トに、一人でも、グループでも、気軽に気の向くまま使える、第3の居場所（サードプレイス）として、やりたいことに挑戦できる活動拠点を整備しており、勉強やおしゃべりや作業、グループ活動など、自分たちの用途に合わせて自由に使いこなし、思い思いの時間を過ごす日常の場所となっている。

利用者からは「宇和島にはこういうスパー

スが大事で、若者にはとても大切だ」一人でもみんなでも気軽に利用することができる良い空間」といった声が届いている。

## ②キャリア教育の視点でのきっかけづくり（イベント実施）

令和3年度までの2年間で、ホリバタを起点に、仕事の最前線を知る各業界の方々とのトークセッション、大学生と中高生がチームとなり、地域と課題について学ぶワークショップやフィールドワーク、多様な分野や最先端の研究を知ることができる講座（東京大学金曜特別講座）などを開催してきた。

例えば、ホリバタを拠点に市内中高生と愛媛大学生が一緒に活動する「うわじま∞あいだいプロジェクト」では、地域の講師から、農林水産、新技術、歴史文化などの各テーマについて、座学とフィールドワークを通して学ぶとともに、地域での取り組みや課題、実践例に触れ、問題解決的・研究的な学習経験の蓄積や、地域に対する興味・関心が高まった。

ホリバタで多様な分野に触れる・地域や社会を知る・多様な人と接することのできるイベントを実施す

ることで、それらを通じて、自身の可能性の拡大や社会力などを獲得し、さらに地域課題や社会について「自分の『関わりしろ』がある」と感じることで、地域の当事者としての意識を持つきっかけとなると考えている。

今後も、利用者が新しい人を呼び込む好循環の仕組みや、市外からも関わってもらえるような仕組みを構築し、青少年の居場所として日常に寄り添い、地域内外の団体等と協働しながら多様なきっかけづくりを続けていきたい。

## まとめ

今後、本市でも少子高齢化がさらに進み、人口減少や地域コミュニティの維持や存続も危ぶまれる状況が想定されている。

このため、これまでの取り組みについて、成果や課題の検証を行うことはもちろん、これからも枠にとらわれず、若い世代の意見も積極的に取り入れ、若者発の取り組みや情報発信、居場所づくり、宇和島の魅力の再発見などに、一つ一つ丁寧に取り組むことで、一度は市外に出た若者が宇和島に帰ってくる、また、宇和島にいる若い世代がこれから地元で活躍できる仕組みを構築していきたい。

# 都市の リスクマネジメント

第151回

## 福祉BCPを支援する 〜2023年度末が期限〜

跡見学園女子大学教授

鍵屋 一



### 福祉BCPとは何か

介護や障害福祉サービス事業者は、2023年度末までに自然災害BCPおよび感染症BCP作成が義務付けられている。福祉BCPの目的は、災害や感染症流行など危機的な状況にあっても、以下の3点を行うことだ。

- ① 利用者や福祉関係職員の安全を確保する
- ② 重要な福祉サービスを継続する
- ③ 早期に復旧を図る

例えば、福祉施設は、火災や災害発生に備えて利用者と職員が安全に避難するために定期的に避難訓練をしている。しかし、本当に火災や災害が発生すれば施設に戻れないはずだ。あるいは、戻れても停電や断水かもしれない。このような危機的な場合でも、利用者への福祉サービスを継続する計画がBCPである。

### 感染症や災害への対応力強化

「令和3年度障害福祉サービス等報酬改定」

において、以下の項目が新たに定められた。介護保険サービスもほぼ同様である。

#### 1 感染症対策の強化(全サービス)

(略)

#### 2 業務継続に向けた取組の強化(全サービス)

○ 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な障害福祉サービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、全ての障害福祉サービス等事業者を対象に、業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練(シミュレーション)の実施等を義務づける。

※3年の経過措置期間を設ける

#### 3 地域と連携した災害対応の強化(施設系、通所系、居住系サービス)

○ 災害への対応においては、地域との連携が不可欠であることを踏まえ、非常災害対策(計画策定、関係機関との連携体制の確保、避難等訓練の実施等)が求められる障害福祉サービス等事業者(施設系、通所系、居住系)において、訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならないこととする。

(傍線部は筆者による)

すなわち、福祉事業者は単にBCPを作成するだけでなく、職員研修を行い、訓練、しかもできるだけ地域住民も参加した訓練をするように求められている。

### 福祉BCPの課題と対策

東日本大震災後の2012〜2014年の3年間、私たちは厚生労働科学研究費を得て、障がい児者被災者、支援者などのインタビューを100人以上に行い、被災地の福祉関係者と共同研究を行った。その後も継続的に研究を続けた結果、福祉BCPは、企業BCPと違って、以下の重要課題と対策があることが明らかになった。

#### 【ハザードの理解と避難】

福祉施設はもちろん、利用者の居宅、また職員自身の自宅や通勤路にはどのようなハザード(洪水や土砂災害、津波の危険性など)があり、警報があったときに、どのような行動をしなければならないかを理解することが最初に重要だ。

# Risk Management

そして、避難場所、避難方法、持ち出し品などについて、避難先での福祉サービスの継続を考慮してBCPを作成し、訓練する。これにより、早めの避難行動を促す。

また、入所施設では特に夜間は職員が少ないので、地域との連携、訓練がとても重要になる。

## 【ライフライン停止に備えた備蓄など】

災害時には停電、断水が危惧される。水や食料、薬などは備蓄されているが、真っ先に困るのはトイレだ。利用者だけでなく、職員のトイレ確保も極めて重要になる。また、電源確保が大事で、吸引吸痰ができなければ命に関わる。さらに、夏の冷房対策、冬の暖房対策も命に関わる課題だ。

## 【職員の自助】

職員が、仮に自宅でケガをしたり、停電断水で家族の生活が厳しかったり、介護や保育をしなければならぬとすれば、簡単には出勤できない。やはり停電断水に備えた自助が不可欠だ。また、ご近所と仲良くして支え合ったり、場合によっては家族全員で施設に來たりするなどの対応が求められる。往々にしてBCPは事業所での事業継続だけを計画するが、職員の自助力が前提となることを忘れてはならない。

## 【避難連絡・確認、情報連絡体制】

自治体から警報が発令されたとき、在宅で訪問系サービスを受けている高齢者、障がい者については、日常の福祉支援者が避難連絡

し、避難の有無を確認するのが有効だ。その上で、避難支援が必要な時は、地域の支援者や市区町村に状況を伝えるか、場合によっては自らが避難支援を行うことが求められる。この避難連絡・確認、避難支援は、市区町村が作成する「個別避難計画」と重なる。したがって、福祉関係者が個別避難計画づくりに参画して作成すれば、福祉事業者のBCPの一部となる。

災害が発生すれば、利用者および職員の安否確認が重要になる。多くの場合、安否確認方法は携帯電話や自宅電話の連絡網だが、災害時には輻輳<sup>ふくそう</sup>などでほとんど機能しない。現在は、SNSやICTを活用した手法が開発されているので、ぜひ複数の情報連絡手段を確保していただきたい。

## 【福祉サービスが継続できる避難先の確保】

小中学校など、福祉サービスに課題のある場所が安易に避難場所として選定されていないだろうか。場合によっては、屋外のグラウンドなどが指定されているかもしれない。考えればすぐ分かることだが、大雨のとき、屋外の避難場所には避難できない。

望ましいのは、同種の福祉サービスを提供している施設への避難である。障がい者入所施設なら同じ入所施設への避難がいいはずだ。

また、通所施設や特別支援学校であっても、大災害であったり、公共交通機関が止まったりで保護者の引き取りがなければ、施設や避難場所において福祉支援を継続しなけ

ればならない。特に東京や大阪では、大地震の時は翌日帰宅を推奨しているので、当日は保護者が引き取りに來られないことを前提に考えておく必要がある。

## 【支援者の確保】

災害時の利用者支援は24時間体制になるので、通常よりも多くの職員が必要だ。その上、職員そのものが被災して参集できない可能性もある。そこで、同一市区町村内の各施設、法人が互いに支援し合えるように協定を結んだり、全国組織との連携により、直ちに支援者を確保できるように検討を進めておくことが重要だ。

市区町村は、保険者、あるいは実施機関として、福祉事業者のBCPをこのような観点から点検、助言するのが役割になる。したがって、市区町村自身も自ら福祉BCPを学び、福祉事業者と一緒に考え、支援する主体的な姿勢が必要である。

## 筆者プロフィール

### 鍵屋 一（かぎやはじめ）

1956年秋田県男鹿市生まれ。早稲田大学法学部卒業。板橋区防災課長、板橋福祉事務所長、福祉部長、危機管理担当部長（兼務）、議会事務局局長等を経て2015年3月退職。京都大学博士（情報学）。2015年4月跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授。法政大学大学院・名古屋大学大学院兼任講師。内閣府「高齢者等の避難に関するサブワーキンググループ座長」など政府委員。内閣府地域活性化伝道師、（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事、（一社）危機管理教育研究所主席研究員など。著書に『図解よくわかる自治体の地域防災・危機管理のしくみ』『ひな型で作る福祉防災計画』など

# 全国市長会の

# 動き

8月25日～9月13日

詳細につきましては、全国市長会ホームページ  
(<https://www.mayors.or.jp/>)  
をご参照ください。

## #1 「令和5年度都市税制改正に関する意見」を決定

9月8日、都市税制調査委員会（委員長・富田・可児市長）をWEB会議により開催し、「令和5年度都市税制改正に関する意見」を決定した。

同意見では、「真の分権型社会の確立に向けた地方税体系の構築」をはじめ、「固定資産税の安定的確保」「自動車関係諸税のあり方の検討に当たっての地方財政への配慮」「地方税務手続のデジタル化」などについて提言している。

また、同意見については、全国会議員、総務省、各政党に提出するとともに、令和5年度税制改正に向け、その実現方について要請活動を行うこととした。

〔財政部〕

## #2

子ども・子育て検討会議座長の東坂・大東市長が小倉・こども政策担当大臣とWEBで会談、こども家庭庁設置に向けた取り組み状況および今後の方向性などに関して意見交換

9月12日、子ども・子育て検討会議座長の東坂・大東市長は、小倉・こども政策担当大臣とともに家庭庁設置に向けた取り組み状況および今後の方向性などについて意見交換を行った。

〔社会文教部〕





WEB出席する牛越・大町市長

## #3 「地方財政審議会」に財政委員会委員長の牛越・大町市長がオンラインで出席

9月13日に開催された地方財政審議会に、本会から財政委員会委員長の牛越・大町市長がオンラインで出席し、「都市税財源の充実確保に関する重点提言」「令和5年度都市税制改正に関する意見」などに基づき、要望陳述を行うとともに、意見交換を行った。

牛越・大町市長からは、大町市の財政面をはじめ市政運営について述べた上で、①地方交付税の総額確保と法定率の引上げ、②固定

資産税の安定的確保、自動車関係諸税のあり方の検討に当たっての地方財政への配慮、森林環境税及び森林環境譲与税の周知等、航空機燃料譲与税の所要額の確保、地方税務手続のデジタル化・基幹税務システムの標準化の推進などの地方税の充実強化、③新型コロナウイルス感染症の影響等に伴う地方財源の確保、④デジタル社会における地方創生の実現に向けた財源の確保、⑤国庫補助金等の補助単価等の適正化などについて要望陳述を行った。

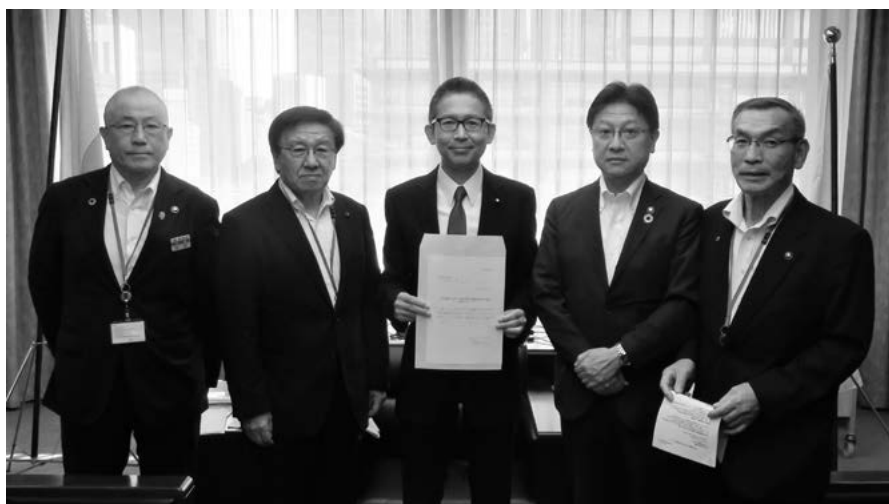
〔財政部〕

## #4

副会長(防災担当)の田辺・静岡市長、副会長の三好・江別市長、理事の中西・留萌市長、木村・幸手市長が「国土強靱化に向けた市町村役場の整備促進に係る提言」の実現方について要請

9月13日、副会長(防災担当)の田辺・静岡市長、副会長の三好・江別市長、理事の中西・留萌市長、木村・幸手市長は、「国土強靱化に向けた市町村役場の整備促進に係る提言」の実現方について、総務省の中川・大臣政務官、内藤・総務審議官、的井・大臣官房審議官(財政制度・財務担当)、神門・地方債課長に面談の上、要請を行った。

〔財政部〕



中川・大臣政務官(中央)に要請